

**Sterling B2B Integrator**



# **EBICS Client ユーザー・ガイド**

**バージョン 5.2.4**



**Sterling B2B Integrator**



# **EBICS Client ユーザー・ガイド**

**バージョン 5.2.4**

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品を誤使用になる前に、 91 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

**著作権**

本書は、Sterling B2B Integrator のバージョン 5 リリース 2 モディフィケーション 4、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** Sterling B2B Integrator  
EBICS Client User Guide  
Version 5.2.4

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.3

© Copyright IBM Corporation 2000, 2012.

# 目次

第 1 章 EBICS の概要 . . . . .	1	第 6 章 ユーザー・アクセス権限の構成 . . . . .	47
第 2 章 EBICS Client の概要 . . . . .	3	ユーザー権限の作成 . . . . .	47
第 3 章 EBICS Client モジュールの手動 によるインストール . . . . .	5	ユーザー・アクセス権限の検索 . . . . .	49
第 4 章 前提条件の構成 . . . . .	7	ユーザー・アクセス権限の編集 . . . . .	49
ID レコードの作成 . . . . .	7	ユーザー・アクセス権限の削除 . . . . .	51
ユーザー・アカウントの作成 . . . . .	9	第 7 章 ユーザーの初期化 . . . . .	53
ファイル・システム・アダプターの構成 . . . . .	12	第 8 章 オーダーの構成 . . . . .	55
メールボックスの作成および権限の割り当て . . . . .	20	第 9 章 ビューアー . . . . .	61
スケジュールの有効化 . . . . .	21	イベントの検索 . . . . .	61
自己署名証明書の作成 . . . . .	22	オーダーの検索 . . . . .	63
CA 証明書のチェックイン . . . . .	23	保留中タスク . . . . .	67
信頼されたシステム証明書のチェックイン . . . . .	25	保留 VEU タスクの検索 . . . . .	68
キー・システム証明書のチェックイン . . . . .	26	保留 VEU タスクの表示 . . . . .	69
第 5 章 EBICS Client のプロファイル管 理 . . . . .	27	保留 VEU オーダーの詳細の取得 . . . . .	70
既存ユーザーの EBICS Client ユーザーとしての構成 . . . . .	27	保留 VEU オーダーの署名 . . . . .	73
ユーザー・プロファイルの検索 . . . . .	32	保留 VEU オーダーのキャンセル . . . . .	75
ユーザー・プロファイルの編集 . . . . .	32	第 10 章 システム・プロパティ値の更 新 . . . . .	79
ユーザー・プロファイルの削除 . . . . .	37	第 11 章 自分のプロファイル . . . . .	81
銀行プロファイルの作成 . . . . .	38	第 12 章 EBICS Client リソースのイン ポートおよびエクスポート . . . . .	83
銀行プロファイルの検索 . . . . .	39	EBICS Client リソースのエクスポート . . . . .	83
銀行プロファイルの編集 . . . . .	40	EBICS Client リソースのインポート . . . . .	85
銀行プロファイルの削除 . . . . .	42	第 13 章 EBICS Client ユーザー・イン ターフェースへのアクセス権限 . . . . .	87
銀行鍵の検証 . . . . .	42	索引 . . . . .	89
オファーの作成 . . . . .	43	特記事項 . . . . .	91
オファーの検索 . . . . .	43		
オファーの編集 . . . . .	44		
オファーの削除 . . . . .	44		
ファイル形式の作成 . . . . .	45		
ファイル形式の検索 . . . . .	45		
ファイル形式の編集 . . . . .	46		
ファイル形式の削除 . . . . .	46		



---

## 第 1 章 EBICS の概要

Electronic Banking Internet Communication Standard (EBICS) とは、インターネットをベースにした通信およびセキュリティーの規格です。EBICS は、主として組織と銀行間で企業の支払取引などのリモート・データ転送に使用されます。

EBICS を使用すると、メッセージの規格や形式に関係なく、データ・ファイルを交換することができます。EBICS では、確立されたデジタル署名と暗号化手順が使用されます。EBICS は、XML、HTTPS、TLS、SSL など、インターネット通信およびセキュリティー強化の国際規格に基づいています。また、EBICS はマルチバンク機能も備えており、EBICS を採用している国の企業クライアントは、同じソフトウェアを使用してそれらの国のどの銀行とも取引を行うことができます。

EBICS Client のトランザクションには、以下のエンティティーが関係します。

**組織** EBICS Client を使用して銀行との取引を行う組織または会社。

**銀行** 組織が取引を行う金融機関。銀行には EBICS Banking Server がインストールされています。

**パートナー**

銀行との対話を行う組織内の部門または単位。

**ユーザーまたはサブスクライバー**

EBICS 取引を実行する部門内の要員。

組織が特定の銀行と銀行特有の EBICS 取引を実施するには、一連の前提条件を満たしている必要があります。EBICS 取引を実施するための基本的な前提条件は、パートナーと銀行間の契約の締結です。この契約で合意する詳細は次のとおりです。

- 業務取引のタイプ。
- ユーザーの銀行口座に関する情報。
- 銀行のシステムとの処理を行うパートナーに関する情報。
- ユーザーの権限および許可。

契約への署名が完了すると、パートナーは銀行のアクセス・データ (銀行パラメーター) を受け取ります。銀行は、契約上の合意事項に従って、銀行システムでパートナーおよびユーザーのマスター・データを構成します。その他の前提条件として、サブスクライバーの初期化、ユーザーによる銀行のパブリック証明書のダウンロード、銀行によるユーザーのパブリック証明書の検証、および取引パートナーによる銀行の証明書の検証があります。

IBM® Sterling B2B Integrator は、取引を実施する銀行および組織に、機密保護機能があり、柔軟で効率的なプラットフォームが完備された EBICS ソリューションを提供します。このソリューションの実装は、EBICS Banking Server と EBICS Client の 2 つの主要コンポーネントに分かれています。EBICS Banking Server は銀行を、EBICS Client は組織に対応します。サーバーとクライアントはいずれも、Sterling B2B Integrator 上にデプロイされます。



---

## 第 2 章 EBICS Client の概要

Sterling B2B Integrator の EBICS Client は、クライアント・サーバー・アプリケーションです。銀行との取引を行う組織にエンドツーエンドの EBICS ソリューションを提供します。EBICS Client を使用すると、パートナーおよびパートナー・ユーザーは複数の銀行、パートナー、およびユーザーを構成して管理できます。複数のユーザーは、HTTP または HTTPS を介して複数の銀行 (EBICS Banking Servers) と対話を行い、EBICS に準拠したトランザクション・メッセージを交換できます。

パートナーは、EBICS Client ダッシュボード・インターフェースで以下のタスクを実行できます。

- ユーザーの構成
- 銀行の構成
- ユーザーのセキュリティー設定の構成
- 銀行のセキュリティー設定の構成
- ファイル形式の作成と管理
- ユーザーの権限の作成と管理
- オファーの作成と管理
- オーダーの構成
- オーダー送信
- オーダー関連イベントおよびレポートの表示

注: EBICS Client では、EBICS バージョン 2.4.2 のフランス語およびドイツ語の実装がサポートされます。



---

## 第 3 章 EBICS Client モジュールの手動によるインストール

Sterling B2B Integrator 5.2.4 のインストール、または前のバージョンの Sterling B2B Integrator から Sterling B2B Integrator 5.2.4 へのアップグレードの際、インストール・マネージャーで「**金融サービス・モジュール (Financial Services Module)**」オプションを選択した場合、EBICS Client モジュールは自動的にインストールされます。

### 始める前に

Sterling B2B Integrator がインストールされている必要があります。Sterling B2B Integrator のインストールおよびアップグレードについては、Sterling B2B Integrator 5.2 インフォメーション・センターの『インストールおよびアップグレードのガイド (Installation and Upgrade guides)』を参照してください。

### このタスクについて

以下のいずれかの条件に該当する場合、EBICS Client モジュールを手動でインストールする必要があります。

- Sterling B2B Integrator 5.2.4 のインストール時に、インストール・マネージャーで、「**金融サービス・モジュール (Financial Services Module)**」オプションを選択しなかった場合。
- 前のバージョンの Sterling B2B Integrator から Sterling B2B Integrator 5.2.4 へのアップグレード時に、インストール・マネージャーで、「**金融サービス・モジュール (Financial Services Module)**」オプションを選択しなかった場合。
- 前のバージョンの Sterling B2B Integrator 5.2.x のパッチとして Sterling B2B Integrator 5.2.4 に適用します。

EBICS Client モジュールを手動でインストールするには、Sterling B2B Integrator 5.2.4 のインストールまたはアップグレード後に、以下のステップを実行します。

**注:** EBICS Client モジュールをクラスター環境にインストールする場合、インストール・インスタンスの各ノードで、以下の手順を実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator を停止します。
2. すべてのコマンド・プロンプト・ウィンドウを閉じます。
3. データベース・パスワードが暗号化されている場合は、暗号化を解除します。
4. すべてのコマンド・プロンプト・ウィンドウを閉じます。
5. EBICS Client のライセンスが含まれるように、以下の手順でライセンス・ファイルを更新します。
  - a. コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
  - b. 次のコマンドを入力します。
    - Microsoft Windows の場合: `install_dir\bin\AddLicenseSet.cmd`  
`install_dir\properties\licensefiles\Fin_Serv_License.xml`

- UNIX の場合: `install_dir\bin\AddLicenseSet.sh install_dir\properties\licensefiles\Fin_Serv_License.xml`
6. 以下の手順で、EBICS Client JAR ファイルをインストールします。
    - a. コマンド・プロンプト・ウィンドウを開きます。
    - b. 次のコマンドを入力します。
      - Microsoft Windows の場合: `install_dir\bin\InstallService.cmd install_dir\packages\v_ebics_client_version number_build number.jar`
      - UNIX の場合: `install_dir\bin\InstallService.sh install_dir\packages\v_ebics_client_version number_build number.jar`
  7. データベース・パスワードの暗号化を解除した場合は、再度パスワードを暗号化します。

---

## 第 4 章 前提条件の構成

### このタスクについて

EBICS Client を使用する前に、Sterling B2B Integrator にアクセスするための以下の前提条件を構成しておく必要があります。

### 手順

1. 組織を基本 ID として指定して、組織の ID レコードを作成します。
2. ユーザー・アカウントを作成し、ユーザーに権限を割り当てます。
3. ファイルの送受信、および EBClientOrderPreProcess business プロセスの起動を有効にするアダプターを構成します。例えば、EBClientOrderPreProcess ビジネス・プロセスを起動する、ファイル・システム・アダプターを構成します。
4. 以下のメールボックスを構成して、各ユーザーに関連付けます。
  - EBClientOrderMetadata (事前構成済み)
  - ダウンロード (受信ボックス)
  - アップロード (送信ボックス)
5. EBClientMessageArrived ビジネス・プロセスが、EBClientOrderMetadata メールボックスに関連付けられていることを検証します。自動ルーティング・ルールによってビジネス・プロセスがトリガーされ、メールボックスの着信メッセージに関する関係者への通知などの自動化された機能が実行されます。

注: EBICS Client ルーティング・ルールの既存の構成は変更しないことをお勧めします。ルーティング・ルール構成を変更すると、オーダー送信で重複したサブセットおよび重複したオーダーが作成される場合があります。
6. MailboxEvaluateAllAutomaticRulesSubMin スケジュールが有効であることを確認します。
7. 証明書のパブリック部分とプライベート部分を Sterling B2B Integrator のシステムおよびトラステッド・ストアにチェックインします。必要な認証局 (CA) 証明書を Sterling B2B Integrator の CA ストアにチェックインするか、自己署名証明書を作成します。ユーザーの構成には、次のタイプの証明書が使用されます。
  - 識別と認証
  - 暗号化 (Encryption)
  - 署名

---

## ID レコードの作成

### このタスクについて

取引パートナーは、ID レコードによって示されます。ID レコードは取引パートナーを記述し、取引パートナーに関するビジネス・プロセスの実行時に参照される情報が保管されます。ID レコード、および取引パートナーの詳細については、「Sterling B2B Integrator 取引パートナー管理 (Trading Partner Management)」文書

を参照してください。ID レコードを作成するには、以下のようにします。

## 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「取引パートナー (Trading Partner)」 > 「拡張」 > 「ID」を選択します。
3. 「作成」の「新規 ID (New Identity)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「ID」ページで、以下のいずれかを行います。
  - 既存の取引プロファイルのすべてのコンポーネントを継承する ID レコードを作成するには、「基本 ID の選択 (Select Base Identity)」から ID を選択し、「次へ」をクリックします。
  - プロパティを指定するには、「基本 ID の選択 (Select Base Identity)」を空白のままにして、「次へ」をクリックします。
5. 情報設定を指定します。「情報 (Information)」ページで以下のフィールドを入力して、「次へ」をクリックします。

情報フィールド	説明
名前	必須。取引プロファイルに作成する ID レコードの名前。
参照 URL	オプション。Uniform Resource Locator (URL) は、取引パートナーのインターネット・アドレスです。
DUNS	オプション。Data Universal Numbering System (DUNS) は、Dun & Bradstreet Corporation によって発行される 9 字の固有会社 ID 番号です。
ID	必須。ID レコードのプライマリー ID。DUNS 番号、EDI 交換 ID、E メール・アドレス、またはその他の固有ストリングを使用できます。
住所行 1 (Address Line 1)	必須。取引パートナー組織の従来型の郵送に使用される住所。
住所行 2 (Address Line 2)	オプション。取引パートナー組織の追加郵送住所情報。
市区町村 (City)	必須。取引パートナーが所在する市区町村。
都道府県 (State or Province)	オプション。ID で示される取引パートナーの組織が所在する都道府県。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	必須。取引パートナーの所在地の郵便番号。
E メール・アドレス (E-mail Address)	オプション。取引パートナーの E メール・アドレス。
電話番号 (Telephone Number)	オプション。取引パートナーの電話番号。
時間帯	オプション。取引パートナーの所在地の時間帯。
国 (Country)	オプション。取引パートナーが所在する国。

6. 「終了」をクリックして、ID を追加します。
7. 「戻る」をクリックして、処理を続行します。

## ユーザー・アカウントの作成

### このタスクについて

開始前に、ローカルと外部のいずれの認証を使用しているかを認識しておく必要があります。

- ローカル – アプリケーションのデータベースに対する認証が実行されます (デフォルト)。
- 外部 – LDAP サーバーに対する認証が実行されます。外部認証は LDAP アダプターを必要としません。LDAP アダプターは、ビジネス・プロセスとともに使用され、システムが Java Naming and Directory Interface (JNDI) を使用してローカル、またはリモートの LDAP サーバーと通信できるようにします。

このアカウントに 1 つ以上の認可ユーザー・キーを割り当てる場合は、ユーザー・アカウントの作成前に取引パートナーからキーを入手してチェックインする必要があります。

また、以下の情報も認識しておく必要があります。

表 1. ユーザー・アカウントの作成

フィールド	説明
ユーザー ID	<p>必須。作成するユーザー・アカウントのユーザー ID。ユーザー ID は、5 文字以上の長さが必要です。</p> <p>MySQL データベースに限っては、ログインで大文字と小文字が区別されません。常に、固有スペルの ID を使用して、ユーザーが偶発的に別のユーザーの ID を使用することがないようにします。</p>
パスワード (ローカル認証のみ)	ローカル・ユーザーの場合は必須。作成するユーザー・アカウントのパスワード。パスワードの長さは 6 文字以上である必要があります。外部ユーザーにはこのフィールドは表示されません。
パスワードの確認 (ローカル認証のみ)	ローカル・ユーザーの場合は必須。2 回目のパスワード入力です。外部ユーザーにはこのフィールドは表示されません。
ポリシー (ローカル認証のみ)	<p>オプション。ユーザー・アカウントに関連付けられるパスワード・ポリシー。関連付けるポリシーをリストから選択します。外部ユーザーにはこのフィールドは表示されません。</p> <p>有効期限は、システムによってユーザーが初めてこのパスワードを使用してログインした日付から計算されます。</p>
認証ホスト (Authentication Host) (外部認証のみ)	ユーザーの認証が実行される Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバー。このフィールドにリストされるサーバー (複数の場合もあり) は authentication_policy.properties.ini ファイルで指定されます。
セッション・タイムアウト	必須。非アクティブな状態で保持できる期間 (分)。この期間を経過すると再ログインが必要になります。分単位の時間です。

表 1. ユーザー・アカウントの作成 (続き)

フィールド	説明
アクセシビリティ (Accessibility)	<p>オプション。ユーザー・アカウントがアクセスできるダッシュボード・ユーザー・インターフェースの部分。</p> <p>アクセシビリティには以下のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理 UI – ダッシュボードの管理コンソール・ペインのみにアクセスします。</li> <li>• AS2 UI – AS2 Edition インターフェースのみにアクセスします。</li> <li>• UCCNET UI – UCCnet Edition インターフェースのみにアクセスします。</li> <li>• ダッシュボード UI – ダッシュボード・インターフェースにアクセスします。ダッシュボード・テーマの選択によって絞り込まれます。</li> </ul>
ダッシュボード・テーマ	<p>アクセシビリティがダッシュボード UI に設定されている場合は必須。ユーザー・アカウントにアクセスが許可される事前定義のダッシュボード。</p> <p>以下は、ダッシュボード・テーマのオプションです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デフォルト</li> <li>• オペレーター</li> <li>• 参加者</li> <li>• 参加者スポンサー (Participant Sponsor)</li> <li>• スポンサー</li> <li>• AFT</li> </ul>
名 (Given Name)	必須。ユーザーの名。
姓 (Surname)	必須。ユーザーの姓。
E メール	ユーザーの E メール・アドレス。
ポケットベル (Pager)	ユーザーのポケットベルの番号。
優先言語	ユーザーの優先言語。英語、フランス語、日本語、スペイン語から選択します。
マネージャー ID (Manager ID)	ユーザーのマネージャーのユーザー ID。
ID	<p>ユーザー・アカウントに関連付ける取引パートナーの ID。1 つのユーザー・アカウントに関連付けることができる取引パートナーは 1 つのみです。ユーザー・アカウントは、それぞれが独自の取引パートナー ID の関連付けを持つ多数のグループに関連付けることができます。これにより、ユーザー・アカウントを複数の取引パートナーに関連付けることができます。「ID」フィールドはメールボックスのルーティング・メッセージに使用されます。取引パートナーの ID をリストから選択します。</p> <p>デフォルト値は、ハブ組織です。</p>

ユーザーの作成、およびユーザーへの権限の割り当ての詳細は、「Sterling B2B Integrator セキュリティー」文書を参照してください。

ユーザー・アカウントを作成するには以下のようにします。

## 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「アカウント」 > 「ユーザー・アカウント」を選択します。
3. 「新規アカウントの作成 (Create a new Account)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「新規アカウント」ページで、「認証タイプ」を選択します。
5. 「ユーザー ID」と「パスワード」を入力します。
6. パスワードを確認します。
7. 「ポリシー」を選択します。
8. 「セッション・タイムアウト」を入力します。
9. 「アクセシビリティ (Accessibility)」を選択します。
10. 「ダッシュボード・テーマ (Dashboard Theme)」を選択します。
11. 「次へ (Next)」をクリックします。
12. 「SSH 認可ユーザー・キー (SSH Authorized User Key)」ページで、1 つ以上の公開鍵を割り当てます。キーを「選択可能 (Available)」ペインから「割り当て済み (Assigned)」ペインに移動して、「次へ」をクリックします。
13. 「グループ」ページで、権限のグループを割り当てます。グループ名を「選択可能 (Available)」ペインから「割り当て済み (Assigned)」ペインに移動して、「次へ」をクリックします。
14. 「権限 (Permissions)」ページで個別の権限を割り当てます。権限を「選択可能 (Available)」ペインから「割り当て済み (Assigned)」ペインに移動して、「次へ」をクリックします。デフォルトでは、ユーザーに割り当てられたグループに関連付けられた権限が既に選択されています。
15. 「ユーザー情報」ページで、「名 (Given Name)」を入力します。
16. 「姓 (Surname)」を入力します。
17. 「E メール・アドレス」を入力します。
18. 「ポケットベル番号 (Pager number)」を入力します。
19. 「優先言語」を選択します。
20. 「マネージャー ID (Manager ID)」を入力します。
21. 「ID」を選択します。
22. 「次へ (Next)」をクリックします。
23. ユーザー・アカウントの設定を確認します。
24. 「終了」をクリックします。ユーザー・アカウントが作成され、次のメッセージが表示されます。

The system update completed successfully.

外部ユーザーを作成した場合は、システムからログアウトしてから、外部ユーザー ID またはアカウントを使用してログインしなおします。外部ユーザー ID は、外部 LDAP サーバー上でシステムによって認証されます。

## ファイル・システム・アダプターの構成

ファイル・システム・アダプターは、ファイル・システムからビジネス・プロセスへのファイルの収集 (インポート)、およびビジネス・プロセスからファイル・システムへのファイルの抽出 (エクスポート)に使用されます。ファイルがファイル・システムから収集された後にビジネス・プロセスが開始されるように、またはファイル・システム・アダプターがビジネス・プロセス・フローに組み込まれるように、ファイル・システム・アダプターを構成できます。また、特定の時間間隔でファイル・システム・アダプターが実行されるようにスケジュールすることもできます。

複数のコレクション・フォルダーのそれぞれに 1 つずつ、合計で複数のファイル・システム・アダプターを作成できます。また、単一のファイル・システム・アダプター構成を使用し、ビジネス・プロセスのファイル収集と抽出に使用するディレクトリを指定することによって、異なる複数のディレクトリを指示することもできます。ファイル・システム・アダプターの構成の詳細は、「ファイル・システム・アダプター (File System Adapter)」の文書を参照してください。

EBClientOrderPreProcess ビジネス・プロセスが起動するように、ファイル・システム・アダプターを構成します。

ファイル・システム・アダプターの構成を作成するには、Sterling B2B Integrator および Graphical Process Modeler (GPM) でフィールド設定を指定します。

次の表は、Sterling B2B Integrator におけるファイル・システム・アダプターの構成に使用されるフィールドを説明しています。

注: 括弧で囲まれたフィールド名は、GPM の対応フィールドを示しています。この情報は参考用としてのみ提供されます。

フィールド	説明
名前	必須。サービス構成の固有および有意義の名前。
説明	必須。サービス構成の有意義の説明。参照用
グループの選択	アダプターに関連付けるグループ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>なし: グループは選択されません。</li><li>新規グループの作成 (Create New Group): 新規グループを作成できます。</li><li>グループの選択 (Select Group): 使用可能なグループのリストから選択します。</li></ul>

フィールド	説明
コレクション・フォルダー (Collection folder) (collectionFolder)	<p>必須。Sterling B2B Integrator がインストールされ、ビジネス・プロセスの一環としてファイルを収集 (または採集) する同じコンピューター上のフォルダーまたはサブフォルダーの名前。フォルダーへのパスが名前の一部として含まれない場合、フォルダーは Sterling B2B Integrator 作業ディレクトリー内にあると想定されます。</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GPM の deleteAfterCollect パラメーターは Yes をデフォルトとして取得します。デフォルト値を No に変更しない場合、収集されたファイルがコレクション・フォルダーから削除されます。ファイル・システム・アダプターでは、収集したファイルを処理のためにコピーすることはありません。deleteAfterCollect パラメーターの詳細については、「<i>Graphical Process Modeler の構成 (Graphical Process Modeler Configuration)</i>」を参照してください。</li> <li>collectionFolder パラメーターは、GPM では読み取り専用です。ただし、ビジネス・プロセス・モデリング言語 (BPML) を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</li> </ul>
ファイル名フィルター (Filename filter) (filter)	<p>オプション。コレクション・フォルダー内で指定されたフィルターに一致するファイルのみが収集されます。例えば、以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*.txt (.txt ファイルのみ収集されます)。</li> <li>*.dat (.dat ファイルのみ収集されます)。</li> <li>EDI.* (EDI と命名された、すべてのファイル拡張子のファイルが収集されます)。</li> <li>EDI.txt (EDI と命名され、ファイル拡張子が .txt のファイルのみが収集されます)。</li> </ul> <p><b>注:</b> コレクション・フォルダーに複数のファイルが存在し、このフィールドを空白にした場合は、以下のいずれかのように処理されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アダプターがビジネス・プロセスを開始するように構成されている場合は、コレクション・フォルダーに置かれた全ファイルが処理されます。</li> <li>アダプターがビジネス・プロセス内にある場合は、コレクション・フォルダーの最初のファイルのみが収集されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> ファイル・システム・アダプターの構成を使用してこのオプションを指定した場合は、GPM フィルター・パラメーターを使用してこの値をオーバーライドできなくなります。ただし、BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>

フィールド	説明
<p>コレクション・フォルダー内のサブフォルダーおよびコレクション・フォルダーからファイルを収集しますか。(Collect files from subfolders within and including the collection folder?)(useSubFolders)</p>	<p>必須。コレクション・フォルダーのサブフォルダー内のファイルをスキャンするかどうかを判別されます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい: 指定されたフォルダーと全サブフォルダーのファイルが収集されます。</li> <li>• いいえ: 指定されたフォルダーのみからファイルが収集されます。</li> </ul> <p>注: このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</p>
<p>文書名に絶対ファイル・パス名を使用しますか。(Use the absolute file path name for the document name?)(keepPath)</p>	<p>必須。文書名の割り当て時に収集されたファイルの絶対パス名を保持するかどうかを判別します。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい: 絶対ファイル・パス名はビジネス・プロセス内で文書とともに保持されます。ビジネス・プロセスでファイル名に先行するパス情報が必要な場合は、この値を選択します。</li> <li>• いいえ: ビジネス・。プロセス内では、ファイル名のみが保持されます。</li> </ul> <p>注: 絶対パスは、作業ディレクトリーまたは結合パスにかかわらず、同じ場所を指示するパスです。ルート・ディレクトリーを基準にして表記されます。例えば、c:¥dir1¥subdir1¥somefile.txt (Windows)、および /home/dir1/subdir1/somefile.txt (UNIX) は、somefile.txt ファイルへの絶対パスの例です。</p> <p>注: このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</p>
<p>ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected?) (bootstrap)</p>	<p>必須。ファイルの収集後、ファイル・システム・アダプターを使用してビジネス・プロセスを開始するかどうかを判別します。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい: フィルター基準に一致するすべてのファイルについて、ビジネス・プロセス・ドロップダウン・リストから指定されたビジネス・プロセスを開始します。ビジネス・プロセスのインスタンスは、maxThreads パラメーターで指定されたスレッド数に達するまで、ファイル・コレクションに指定されたフィルター基準と一致するすべてのファイルに対して開始されます。</li> <li>• いいえ: ビジネス・プロセスは開始されません。このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</li> </ul>

フィールド	説明
ビジネス・プロセス (initialWorkflowId)	<p>「<b>ビジネス・プロセスの開始 (Start a business process)</b>」が「はい」に設定されている場合は必須です。ビジネス・プロセスは、ファイルの収集後に開始されます。「ビジネス・プロセス」ドロップダウン・リストから <code>EBClientOrderPreProcess</code> を選択します。</p> <p>注: このフィールドは、「<b>ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)</b>」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してビジネス・プロセスを指定する場合は、<code>GPM initialWorkflowId</code> オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。「適用しない」を選択した場合は、<code>GPM</code> でビジネス・プロセスを選択できます。いずれの場合も、<code>BPML</code> を使用すればこのパラメーターをオーバーライドできます。</p>
文書ストレージ・タイプ (Document storage type) (docStorageType)	<p>必須。システム内で文書を保管する方法を定義します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム・デフォルト</li> <li>• データベース</li> <li>• ファイル・システム</li> </ul> <p>注: このフィールドは、「<b>ファイルを収集したらビジネス・プロセスを開始しますか?</b>」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、<code>GPM DocStorageType</code> オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし、<code>BPML</code> を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>
ファイル内容を隠しますか。 (Obscure File Contents?)(obscure)	<p>収集時にファイル内容を隠すかどうかを指定します。<code>attachFile</code>、または <code>importFile</code> では機能しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい: ファイル内容が隠されます。</li> <li>• いいえ: ファイル内容は隠されません。</li> </ul> <p>注: このフィールドは、「<b>ファイルを収集したらビジネス・プロセスを開始しますか?</b>」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、<code>GPM Obscure</code> オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし、<code>BPML</code> を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>

フィールド	説明
ユーザー・パラメーター 1 (userParm1)	<p>ブートストラップされるワークフローに渡され、プロセス・データに UserParm1 としてプロセスに配置されるユーザー・パラメーター。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、GPM userParm1 オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>
ユーザー・パラメーター 2 (userParm2)	<p>ブートストラップされるワークフローに渡され、プロセス・データに UserParm2 としてプロセスに配置されるユーザー・パラメーター。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、GPM userParm2 オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>
ユーザー・パラメーター 3 (userParm3)	<p>ブートストラップされるワークフローに渡され、プロセス・データに UserParm3 としてプロセスに配置されるユーザー・パラメーター。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、GPM userParm3 オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>
ユーザー・パラメーター 4 (userParm4)	<p>ブートストラップされるワークフローに渡され、プロセス・データに UserParm4 としてプロセスに配置されるユーザー・パラメーター。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、GPM userParm4 オプションを使用してこの値をオーバーライドできません。ただし BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>

フィールド	説明
ユーザー・パラメーター 5 (userParm5)	<p>ブートストラップされるワークフローに渡され、プロセス・データに UserParm5 としてプロセスに配置されるユーザー・パラメーター。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。(Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。構成を使用してこのパラメーターを指定した場合は、GPM userParm5 オプションを使用して、この値をオーバーライドできません。ただし BPML を使用すると、このパラメーターをオーバーライドできます。</p>
Run As ユーザー	<p>ビジネス・プロセスのスケジューリングに適用されます。「Run As ユーザー」フィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか (Start a business process once files are collected)」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。スケジュールに関連付けるユーザー ID を入力するか、リスト・アイコンをクリックしてリストからユーザー ID を選択します。有効な値は、任意の認証 Sterling B2B Integrator ユーザー ID です。</p> <p><b>注:</b> このパラメーターを使用すると、特定のビジネス・プロセスに対する権限がないユーザーも、そのプロセスを実行できます。ユーザー ID として <b>Admin</b> を選択すると、管理権限 (ビジネス・プロセスのこの種類の実行のみ) を継承し、スケジュールされた実行を使用可能にできます。</p>
24 時間クロック表示の使用 (Use 24 Hour Clock Display)	<p>選択すると、アダプターではデフォルトの 12 時間クロックではなく、24 時間クロックが使用されます。</p>

フィールド	説明
Schedule	<p>ファイル・システム・アダプターによるファイルの収集後のビジネス・プロセスのスケジューリングに関する情報。「スケジュール」フィールドは、「ファイルが収集されたらビジネス・プロセスを開始しますか。<b>(Start a business process once files are collected)</b>」が「はい」に設定されている場合のみ、オプションとして表示されます。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュールを使用しない (Do not use schedule)。</li> </ul> <p>このフィールドを選択すると、アダプターはビジネス・プロセスを開始せず、スケジュールによる実行を行いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイマーに基づいて実行 (Run based on timer)。</li> </ul> <p>有効な値はアダプターの実行時点を指定する時分です。時間間隔を選択することにした場合、有効な値はその間隔の時分です。必要に応じて選択を追加または削除してください。除外する日付を任意に指定します。アダプターを開始時に実行するかどうかを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日実行 (Run daily)。</li> </ul> <p>有効な値は、毎日のアダプター実行時点を指定する時分です。時間間隔を選択することにした場合、有効な値はその間隔の時分です。必要に応じて選択を追加または削除してください。除外する日付を任意に指定します。アダプターを開始時に実行するかどうかを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>曜日に基づいて実行 (Run based on days of the week)。</li> </ul> <p>有効な値はアダプターの実行時点を指定する曜日、時間、および分です。時間間隔を選択することにした場合、有効な値はその間隔の時分です。必要に応じて選択を追加または削除してください。除外する日付を任意に指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日付に基づいて毎月実行 (Run based on days of the month)。</li> </ul> <p>有効な値は、アダプターの実行時点を指定する日(月内)、時間、および分です。時間間隔を選択することにした場合、有効な値はその間隔の時分です。必要に応じて選択を追加または削除してください。除外する日付を任意に指定します。</p>

フィールド	説明
抽出フォルダー (Extraction folder) (extractionFolder)	<p>必須。Sterling B2B Integrator がインストールされ、ビジネス・プロセスの一環としてプライマリー文書からデータを抽出する (または書き込む)、同じコンピューター上のフォルダーおよびサブフォルダーの名前。名前の一部としてフォルダーへのパスが組み込まれていない場合、フォルダーは、Sterling B2B Integrator 作業ディレクトリーであると想定されます。</p> <p><b>注:</b> このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</p>
ファイル内容を隠さないでおきますか。 (Unobscure File Contents?) (unobscure)	<p>抽出時にファイル内容を隠さないでおくかどうかを指定します。 <i>exportFile</i> では機能しません。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい: ファイル内容は隠されません。</li> <li>• いいえ: ファイル内容は隠されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</p>
ファイル命名規則 (Filenaming convention) (assignFilename)	<p>必須。文書ファイル名をオーバーライドするかどうか、割り当てられたファイル名を使用するかどうかを判別します。有効な値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 抽出されたファイルの名前に元のファイル名を使用する (Use the original file name as the extracted file name): ファイルの名前を保持します。</li> </ul> <p><b>注:</b> プライマリー文書に文書名がない場合、アダプターでは、 <i>nodename_yyyyMMddHHmmssSSS.dat</i> の形式のデフォルトのファイル名を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 固有名を割り当てる (Assign a specific name): 画面にナビゲートするオプションが示され、ファイル・システムに抽出されたファイルに別のファイル名を指定します。</li> </ul> <p><b>注:</b> このパラメーターは、GPM では読み取り専用です。</p>

フィールド	説明
ファイル名 (assignedFilename)	<p>必須。割り当てるファイル名で、ファイル名拡張子も含まれます。「ファイル名」フィールドは、「ファイル命名規則」が「固有名を割り当てる (assign a specific name)」に設定されている場合のみ表示されます。このフィールドを空白にすることはできません。形式 <code>nodename_yyyyMMddHHmmssSSS</code> で固有のファイル名を割り当てるには、「%^」を使用できます。</p> <p>例えば、ファイル名として <code>%.dat</code> を指定すると、「ファイル名」では名前 <code>nodename_20040203114020982.dat</code> がファイルに割り当てられます。</p> <p><b>注:</b> このフィールドは、GPM でも割り当てることができます。ファイル・システムアダプターの置く正を使用してファイル名を選択した場合は、GPM assignedFilename パラメーターを使用してこの値をオーバーライドできなくなります。ただし、BPML を使用すると、オーバーライドできます。</p>
ビジネス・プロセスのサービスを使用可能にする (Enable Service for Business Processes)	<p>ビジネス・プロセスでのサービスの使用を使用可能にするかどうかを判別します。選択しない場合、サービスは使用不可になります。サービスの使用可能化の詳細は、「サービスとアダプターの管理 (Managing Services and Adapters)」を参照してください。</p>

## メールボックスの作成および権限の割り当て

### このタスクについて

EBICS Client ユーザーのそれぞれに、事前構成された EBClientOrderMetadata メールボックスを関連付ける必要があります。ダウンロード (受信ボックス) とアップロード (送信ボックス) のメールボックスを作成して、各ユーザーとメールボックスを関連付ける必要があります。

メールボックスの構成、およびグループとユーザーへのアクセス権の割り当ての詳細は、「*Sterling B2B Integrator* メールボックスのヘルプ (Mailbox Help)」文書を参照してください。

メールボックスを作成して、グループおよびユーザーにこのメールボックスを操作する権限を割り当てるには、以下のようにします。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「展開」 > 「メールボックス (Mailboxes)」 > 「構成」を選択します。
3. 「新規メールボックスの作成 (Create a new Mailbox)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「メールボックス: 名前 (Mailbox: Name)」ページで、作成するメールボックスが埋め込まれる親メールボックスを選択します。「フィルターに使用する名前

(Filter by Name)」フィールドに名前の一部を入力して、フィルター・ボタンをクリックするとリストがフィルタリングされます。 ルート・メールボックスは、スラッシュ (/) によって示されます。

5. 「名前」フィールドに、作成するメールボックスの名前を入力します。 この名前は、EBClientOrderMetadata など、アプリケーションでのメールボックスの識別に使用されます。
6. 必須。「説明」フィールドに、メールボックスの簡単な説明を入力して、「次へ」をクリックします。 このフィールドは、メールボックスの説明に使用されます。このフィールドは、システムの他のリソースには使用されません。
7. 「グループの割り当て (Assign Groups)」ページで、矢印を使用してグループを「選択したグループ (Selected Groups)」リストに追加し、「次へ」をクリックします。「選択したグループ (Selected Groups)」リストのすべてのグループにこのメールボックスへの権限が設定されます。最初の二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのグループが、「選択したグループ (Selected Groups)」リストに追加されます。
8. 「フィルターに使用する名前 (Filter by Name)」フィールドで、グループ名の一部をフィールドに入力して、フィルター・ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。
9. 「アカウント」メニューでは、複数のグループを追加できます。必須のグループはありません。
10. 矢印を使用して、ユーザーを「選択したユーザー (Selected Users)」リストに追加し、「次へ」をクリックします。「選択したユーザー (Selected Users)」リストのすべてのユーザーにこのメールボックスへの権限が設定されます。二重矢印をクリックすると、選択可能なすべてのユーザーが「選択したユーザー (Selected Users)」リストに追加されます。
11. 「フィルターに使用する ID (Filter by ID)」フィールドで、名前の一部をフィールドに入力して、フィルター・ボタンをクリックすると、リストがフィルタリングされます。

---

## スケジュールの有効化

### このタスクについて

スケジュールを有効化すると、スケジュールがアクティブになり、関連付けられたアクティビティがスケジュール設定に従って実行されます。スケジュールを実行するには、有効化する必要があります。手作業を自動化するスケジュールのセットアップの詳細については、「*Sterling B2B Integrator* スケジューリング (Scheduling)」文書を参照してください。

MailboxEvaluateAllAutomaticRulesSubMin スケジュールは自動的に有効化されます。

スケジュールを有効化する手順は以下のとおりです。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「展開」 > 「スケジュール (Schedules)」を選択します。

3. 「検索」または「リスト」を使用して、MailboxEvaluateAllAutomaticRulesSubMin スケジュールを探し、「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「スケジュール (Schedules)」ページで、MailboxEvaluateAllAutomaticRulesSubMin スケジュールを探し、「使用可能」列のチェック・ボックスが選択されていることを確認します。

---

## 自己署名証明書の作成

### このタスクについて

自己署名証明書のパブリック部分を Sterling B2B Integrator のトラステッド・ストアにチェックインします。自己署名証明書を作成するには、以下のようにします。

### 手順

1. 次のオプションのいずれかを選択してください。
  - Sterling B2B Integrator を使用している場合は、「管理」メニューから、「取引パートナー (Trading Partner)」 > 「デジタル証明書 (Digital Certificates)」 > 「システム (System)」を選択します。
  - AS2 Edition を使用している場合は、「AS2 管理 (AS2 Administration)」メニューから、「証明書」を選択します。
2. 自己署名証明書の作成 (Create Self-signed Certificate) の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 自己署名証明書の「名前」を入力します。
4. 「組織」の名前を入力します。
5. 自己署名証明書の「国」、または作成元を選択します。
6. 組織における証明書の責任者の連絡先「E メール」アドレスを入力して、「次へ」をクリックします。
7. 証明書の「シリアル番号」を入力します。シリアル番号は、自己署名証明書に割り当てる番号です。
8. 自己署名証明書が有効である「期間」(日数)を入力します。
9. SubjectAltName フィールドと同様に、証明書と関連付けるネットワーク・インターフェースの「IP アドレス (IP addresses)」を入力します。
10. SubjectAltName フィールドと同様に、証明書と関連付けるネットワーク・インターフェースの「DNS 名 (DNS Names)」を入力します。
11. 「キーの長さ (Key Length)」を選択します。キーの長さは次のいずれかから選択します。
  - 512
  - 1024
  - 2048

注: セキュリティー、相互運用性、および効率のバランスの面から見ると、キーの長さは 1024 が適しています。キーの長さが 2048 の場合は、セキュリティの面では最も優れていますが、低速になり、一部のアプリケーションで機

能しない場合があります。電子署名、暗号化および認証の EBICS 固有のキーの長さの定義については、EBICS 仕様、バージョン 2.4.2 を参照してください。

12. 「署名アルゴリズム」を選択します。

注: EBICS トランザクションで使用する証明書には、SHA256withRSA 署名アルゴリズムを使用する必要があります。

13. オプション「**使用時に検証 (Validate When Used)**」を選択します。検証オプションは以下のとおりです。

- 有効期間 (Validity) – 証明書の有効期間の日付がまだ有効であるかを検証します。日付が有効でない場合、証明書は使用されません。

注: 証明書の有効期間に値を設定する前に、「Microsoft PKI Quick Guide」に記載されているベスト・プラクティスの推奨事項を参照し、適用する必要があります。証明書を使用する際のベスト・プラクティスの推奨事項については、<http://www.windowsecurity.com/articles/Microsoft-PKI-Quick-Guide-Part3.html> を参照してください。

- 認証チェーン (Auth Chain) – 自己署名されていない証明書の信頼チェーンを構成します。有効な証明書を使用して信頼チェーンを構成できない場合、証明書は使用されません。証明書が自己署名されている場合、このオプションでは、証明書の署名のみが検証されます。

14. チェック・ボックスを選択して、「**証明書署名ビット (Certificate Signing Bit)**」を設定します。
15. 「次へ (Next)」をクリックします。
16. 自己署名証明書の情報を確認します。
17. 「終了」をクリックします。

---

## CA 証明書のチェックイン

### このタスクについて

サイトのセキュリティー・ポリシーに基づいて、Java Key Store (JKS) 内の認証局 (CA) 証明書をコンソールを介してチェックインすることもできます。

開始前に、外部で取得したすべての CA 証明書をローカル・ファイルに保存します。

EBIC Client ユーザーが銀行との取引に必要とするすべての証明書 (ID と認証、署名、および暗号化) をチェックインします。ユーザーの構成に CA 署名済み証明書を使用する場合は、ルート CA 証明書をチェックインします。署名に 3SKey が使用される場合は、ルート 3SKey 証明書をチェックインします。サーバーの HTTPS 証明書のパブリック部分を Sterling B2B Integrator の CA ストアにチェックインします。デジタル証明書の管理の詳細については、「*Sterling B2B Integrator* セキュリティー (Security)」文書を参照してください。

CA 証明書をチェックインするには、以下を実行します。

## 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「取引パートナー (Trading Partner)」 > 「デジタル証明書 (Digital Certificates)」 > 「CA」を選択します。
3. 「新規証明書」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 証明書をインポートする方法を以下から選択します。

インポート方法	次のステップ
JVM からのインポート - JKS 鍵ストアからのインポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>JVM からインポート (Import from JVM)</b> をクリックします。</li><li>2. パスワード・フィールドに表示されるデフォルトのパスワードを受け入れ、「次へ」をクリックします。</li></ol> <p>パスワード・フィールドが空の場合も、システムではデフォルトのパスワードが使用されます。</p>
ファイルからのインポート - ローカル・ドライブにファイルとして保存された証明書の インポート	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 「ファイル」から「インポート」をクリックします。</li><li>2. ファイル名を入力するか、「参照」をクリックして、CA 証明書ファイルを選択します。「次へ (Next)」をクリックします。</li></ol> <p>パスワード・フィールドに表示されたパスワードは無視してかまいません。エントリーを削除する必要はありません。</p>

選択可能な証明書が識別情報の要約とともにリスト表示されます。デフォルトではすべての証明書が選択されています。

5. 各エントリーの左にあるチェック・ボックスを選択して、証明書をインポートします。
6. 選択した証明書のそれぞれについて、提案された証明書名を受け入れるか、使用するファイル命名規則に基づいて編集します。
7. オプション「**使用時に検証 (Validate When Used)**」を選択して、「次へ」をクリックします。検証オプションは以下のとおりです。
  - 有効期間 (Validity) - 証明書の有効期間の日付がまだ有効であるかを検証します。日付が有効でない場合、証明書は使用されません。
  - 認証チェーン (Auth Chain) - 自己署名のない証明書の信頼チェーンの構成を試行します。有効な証明書を使用して信頼チェーンを構成できない場合、証明書は使用されません。証明書が自己署名されている場合、このオプションでは、証明書の署名のみが検証されます。
8. 証明書が、既にデータベースに存在する証明書と重複するというメッセージが出力された場合、Y または N を入力して、複製をインポートするかどうかを指示します。

このチェックは、単一の証明書でのみ実行されます。1 つのファイルから 1 つ以上の証明書をチェックインする場合はこのチェックが実行されません。

証明書は、複製を判別するため SHA1 または SHA256 ハッシュで識別されます。証明書のそれぞれが異なる行を取り込み、個別のオブジェクト ID が設定

されるため、データベース内に1件の証明書の複数のコピーが存在する場合があります。既存の証明書が上書きされることはありません。

9. CA 証明書情報を確認します。
10. 「終了」をクリックします。

---

## 信頼されたシステム証明書のチェックイン

### このタスクについて

ユーザーの証明書のパブリック部分を Sterling B2B Integrator のトラステッド・ストアにチェックインします。

開始前に信頼されたシステム証明書を、ローカル・コンピューターのファイルに保存します。

信頼されたシステム証明書をチェックインするには、以下を実行します。

### 手順

1. 次のオプションのいずれかを選択してください。
  - Sterling B2B Integrator を使用している場合は、「管理」メニューから、「取引パートナー (Trading Partner)」 > 「デジタル証明書 (Digital Certificates)」 > 「トラステッド (Trusted)」を選択します。
  - AS2 Edition を使用している場合は、「AS2 管理 (AS2 Administration)」メニューから、「証明書」を選択します。
2. 「新規証明書」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「ファイル名」に入力するか、「参照」をクリックして、信頼される証明書のファイル名を選択し、「次へ」をクリックします。
4. 「証明書名 (Certificate Name)」に入力します。
5. チェックインする信頼された証明書の名前を検証します。選択した証明書のそれぞれに対して「証明書名 (Certificate Name)」フィールドに提案名が表示され、その後ろに証明書の識別情報の要約が続きます。名前は、使用するファイル命名規則に基づいて変更できます。
6. 選択したファイルに信頼された証明書が複数存在する場合は、各証明書の左にあるチェック・ボックスを選択して証明書をチェックインします。
7. オプション「使用時に検証 (Validate When Used)」を選択して、「次へ」をクリックします。検証オプションは以下のとおりです。
  - 有効期間 (Validity) – 証明書の有効期間の日付がまだ有効であるかを検証します。日付が有効でない場合、証明書は使用されません。
  - 認証チェーン (Auth Chain) – 自己署名のない証明書の信頼チェーンの構成を試行します。有効な証明書を使用して信頼チェーンを構成できない場合、証明書は使用されません。証明書が自己署名されている場合、このオプションでは、証明書の署名のみが検証されます。
  - CRL キャッシュ (CRL cache) – システム証明書を使用するたびに、証明書失効リストを調べるかどうかを制御します。
8. 信頼された証明書情報を確認します。
9. 「終了」をクリックします。

---

## キー・システム証明書のチェックイン

### このタスクについて

開始前に、キー・システム証明書をローカル・コンピューターのファイルに保存します。CA 署名済み証明書のプライベート部分を Sterling B2B Integrator のキー・システム証明書にチェックインします。

キー・システム証明書をチェックインするには、以下を実行します。

### 手順

1. 次のオプションのいずれかを選択してください。
  - Sterling B2B Integrator を使用している場合は、「管理」メニューから、「取引パートナー (Trading Partner)」 > 「デジタル証明書 (Digital Certificates)」 > 「システム (System)」を選択します。
  - AS2 Edition を使用している場合は、「AS2 管理 (AS2 Administration)」メニューから、「証明書」を選択します。
2. 「キー証明書 (Key Certificate)」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
3. 「証明書名 (Certificate Name)」に入力します。
4. 「秘密鍵パスワード (Private Key Password)」を入力します。このパスワードは秘密鍵の暗号化に使用されます。
5. 「ファイル名」を入力するか、「参照」をクリックしてキー証明書のファイル名を選択して、「次へ」をクリックします。
6. オプション「使用時に検証 (Validate When Used)」を選択して、「次へ」をクリックします。検証オプションは以下のとおりです。
  - 有効期間 (Validity) – 証明書の有効期間の日付がまだ有効であるかを検証します。日付が有効でない場合、証明書は使用されません。
  - 認証チェーン (Auth Chain) – 自己署名されていない証明書の信頼チェーンを構成します。有効な証明書を使用して信頼チェーンを構成できない場合、証明書は使用されません。証明書が自己署名されている場合、このオプションでは、証明書の署名のみが検証されます。
7. キー証明書情報を確認します。
8. 「終了」をクリックします。

---

## 第 5 章 EBICS Client のプロフィール管理

EBICS Client のプロフィール管理では、以下のプロフィールを構成することができます。プロフィールの構成は、スーパー管理者、または EBICS Client 管理者が実行できます。

- 銀行
- ユーザー
- オファー
- ファイル形式

注：スーパー管理者は、EBICS Client のインストール時に作成されるデフォルトの管理者の役割です。許可されたユーザーは、スーパー管理者ログインの資格情報を使用して、EBICS Client ダッシュボード・インターフェースにログインして、EBICS Client 管理者、EBICS Client オペレーター、および EBICS Client ユーザーとその他のプロフィールを構成できます。EBICS Client 管理者も、EBICS Client 管理者、EBICS Client オペレーター、EBICS Client ユーザー、およびその他のプロフィールを構成できます。

---

### 既存ユーザーの EBICS Client ユーザーとしての構成

#### 始める前に

Sterling B2B Integrator で以下を構成します。

- 取引パートナー・エンティティの作成
- 取引パートナー・エンティティを使用したユーザー・アカウントの作成、権限およびパスワード・ポリシーの定義
- 各ユーザーのアップロードおよびダウンロードのメールボックスの構成

#### このタスクについて

ユーザーは、1 つまたは複数のパートナーに属することができます。EBICS メッセージを交換できるように、ユーザーは常にパートナーと関連付けられています。既存の Sterling B2B Integrator ユーザーを EBICS Client ユーザーとして構成するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「ユーザー」を選択します。
3. 「ユーザー構成 (User Configuration)」ページで、「既存ユーザーを EBICS ユーザーとして構成 (Configure existing user as EBICS user)」の横にある「GO」をクリックします。
4. 「ユーザー構成 (User Configuration)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
ユーザー ID	必須。「ユーザー ID」ドロップダウン・リストから、ユーザー ID を選択します。
ユーザー・タイプ	必須。「ユーザー・タイプ」ドロップダウン・リストから、ユーザーの役割を選択します。有効な値は、EBICS client admin、EBICS client operator、および EBICS client user です。
時間帯	オプション。ユーザーの時間帯を指定します。
テクニカル・ユーザー (Technical user)	オプション。このオプションは、ユーザー・タイプで EBICS Client User を選択した場合に有効になります。テクニカル・ユーザーを構成するには、このチェック・ボックスを選択します。テクニカル・ユーザーとは、バックエンド・システムを使用して、非テクニカル (ヒューマン・ユーザー) の EBICS Client ユーザーの代理としてオーダーを送信するように構成された EBICS Client ユーザーです。
証明書タイプ	ユーザー・タイプとして EBICS Client ユーザーを選択した場合は必須です。X.509 公開鍵証明書を使用して証明書を認可する場合は、「X509 (X509)」を選択します。RSA キーを使用して証明書を認可する場合は「キー」を選択します。 注: EBICS Client は、暗号化されていない鍵のみをサポートします。

5. 証明書タイプとして「X509 (X509)」を選択した場合は、「テクニカル情報 (Technical Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
認証プライベート証明書 (Authentication private certificate)	必須。EBICS Client が使用する秘密鍵を選択して、銀行に送信される要求におけるユーザーのデジタル署名を作成します。銀行が権限を検証するには、キーの公開部分を所有している必要があります。ドロップダウンには、Sterling B2B Integrator システム証明書ストアで構成された証明書のリストが組み込まれます。

フィールド	説明
認証パブリック証明書 (Authentication public certificate)	必須。ユーザーが銀行に提供する公開鍵を選択します。これは EBICS Client からの要求におけるユーザーの権限の検証に使用されます。取引パートナーおよびユーザーは、銀行と鍵を共有します。この鍵は、認証プライベート証明書として選択された Sterling B2B Integrator システム証明書のパブリック部分でなければなりません。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	認証証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は X002 です。
暗号化プライベート証明書	必須。EBICS Client が EBICS Banking Server から受信した応答の暗号化解除に使用する秘密鍵を選択します。ドロップダウンには、Sterling B2B Integrator システム証明書ストアで構成された証明書のリストが組み込まれます。
暗号化パブリック証明書	必須。暗号化プライベート証明書として選択された Sterling B2B Integrator システム証明書のパブリック部分を選択します。取引パートナーおよびユーザーは、銀行と鍵を共有します。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	暗号化証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は E002 です。
電子署名にハードウェア鍵ストアを使用 (Use hardware key-store for Electronic signature)	オプション。アクティブな 3S キー・トークンがある場合は、このオプションを選択します。
ハードウェア・キー・タイプ (Hardware key type)	3S キーがハードウェア・キー・タイプとして表示されます。3SKey は、デジタル ID に使用される SWIFT セキュア・シグニチャー・キーです。3SKey トークンをアクティブにして、このキーを銀行に登録し、署名および銀行へのメッセージ送信を使用可能にする必要があります。
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	オプション。電子署名にハードウェア・キーを使用しない場合は、電子署名 (ES) 証明書の秘密鍵を選択します。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	必須。オーダー・データの署名の検証に使用される電子署名 (ES) 証明書の公開鍵を選択します。電子署名証明書の公開鍵値は、認証または暗号化証明書と同じにはできません。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	電子署名にハードウェア鍵ストアを使用しない場合は必須です。電子署名証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は A005 および A006 です。  電子署名にハードウェア鍵ストアを使用している場合は、鍵バージョンが A005 に設定され、変更はできません。

6. 証明書タイプとして「キー」を選択した場合は、「テクニカル情報 (Technical Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
認証秘密鍵 (Authentication private key)	必須。「参照」をクリックして、認証キーの秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
認証公開鍵 (Authentication public key)	必須。「参照」をクリックして、認証キーの公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	必須。認証証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は X002 です。
暗号化秘密鍵 (Encryption private key)	必須。「参照」をクリックして、暗号鍵の秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
暗号化公開鍵 (Encryption public key)	必須。「参照」をクリックして、暗号鍵の公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	必須。暗号化証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は E002 です。
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	必須。「参照」をクリックして、電子署名の秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	必須。「参照」をクリックして、電子署名キーの公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	必須。電子署名証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は A005 および A006 です。

7. 「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、次の操作を実行し、「次へ (Next)」をクリックします。
- 追加アイコンをクリックして、新規のパートナーをユーザーに関連付けます。
  - 編集するパートナーの横にある更新アイコンをクリックします。
  - 削除アイコンをクリックして、ユーザーからパートナーとの関連を解除します。
8. このステップは、新しいパートナーの追加または既存のパートナーの編集を選択した場合にのみ適用されます。銀行はオファーに基づいて、権限、オーダーのタイプ、ファイル形式のセットをユーザーに割り当てます。「関連パートナー: ユーザー設定 (Associated Partners: User Settings)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「パートナーの追加 (Add partner)」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	<p>必須。「パートナー名 (Partner name)」ドロップダウン・リストから、ユーザーが関連付けられているパートナーを選択します。ユーザーは複数のパートナーに関連付けることができます。</p> <p><b>注:</b> Sterling B2B Integrator ダッシュボードを使用して取引パートナー・エンティティを作成します。</p>
アップロード・メールボックス・パス (Upload mailbox path)	<p>必須。アップロード・メールボックスを構成して、Sterling B2B Integrator のメールボックスを操作するユーザーを割り当てます。アップロードされたメッセージのメールボックス・パスを指定します。EBICS 要求からアンパックされたメッセージを保管するには、メールボックス・パスを割り当てる必要があります。</p> <p>メールボックス (ユーザー ID、パートナー名、受信ボックス) が既に Sterling B2B Integrator に存在する場合、このフィールドを空白のままにすると、デフォルトのメールボックス・パスを指定するように求めるエラー・メッセージが表示されます。</p> <p><b>注:</b> メールボックス・パスの先頭には、必ずスラッシュ (/) を付けてください。</p>
ダウンロード・メールボックス・パス (Download mailbox path)	<p>必須。ダウンロード・メールボックスを構成して、Sterling B2B Integrator のメールボックスを操作するユーザーを割り当てます。ダウンロードされたメッセージのメールボックス・パスを指定します。EBICS 応答の一部としてパッケージ化されるメッセージを保管するには、メールボックス・パスを割り当てる必要があります。</p> <p>メールボックス (ユーザー ID、パートナー名、送信ボックス) が既に Sterling B2B Integrator に存在する場合、このフィールドを空白のままにすると、デフォルトのメールボックス・パスを指定するように求めるエラー・メッセージが表示されます。</p> <p><b>注:</b> メールボックス・パスの先頭には、必ずスラッシュ (/) を付けてください。</p>

9. このステップは、テクニカル・ユーザーのユーザー委任設定の構成を選択した場合のみ適用されます。「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、次の操作を実行し、「次へ (Next)」をクリックします。

- 追加アイコンをクリックして、新規のパートナーをテクニカル・ユーザーに関連付けます。
- 編集するパートナーの横にある更新アイコンをクリックします。

- 削除アイコンをクリックして、テクニカル・ユーザーからパートナーとの関連を解除します。
10. このステップは、テクニカル・ユーザーのユーザー委任設定を構成している場合のみ適用されます。「関連パートナー: ユーザー設定 (Associated Partners: User Settings)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「パートナーの追加 (Add partner)」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。「パートナー名 (Partner name)」ドロップダウン・リストから、ユーザーが関連付けられているパートナーを選択します。ユーザーは複数のパートナーに関連付けることができます。 注: Sterling B2B Integrator ダッシュボードを使用して取引パートナー・エンティティを作成します。
委任者 (Delegate of)	必須。タスクをテクニカル・ユーザーに委任するユーザーを選択します。

11. 「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、「次へ (Next)」をクリックします。
12. 「確認 (Confirm)」ページで、ユーザーの構成設定を確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。また、関連パートナー (Associate Partners)」の横にある「すべてを表示」リンクをクリックすると、ユーザーに関連付けられたパートナーのリストを表示することもできます。

---

## ユーザー・プロファイルの検索

### このタスクについて

ユーザー・プロファイルを検索するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「ユーザー」を選択します。
3. 「ユーザー構成 (User Configuration)」ページで、以下のいずれかの操作を行い、「GO」をクリックします。
  - 「検索」の「ユーザー ID」フィールドで、検索するユーザー・プロファイルのユーザー ID の一部またはユーザー ID 全体を入力します。
  - 「アルファベット順 (Alphabetically)」ドロップダウン・リストから、検索するユーザーの ID の先頭文字を選択します。

---

## ユーザー・プロファイルの編集

### このタスクについて

ユーザー・プロファイルを編集するには、以下のステップを実行します。

## 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「ユーザー」を選択します。
3. 「ユーザー構成 (User Configuration)」ページで、「検索」または「リスト」を使用して、編集するユーザー ID を探して選択し、「GO」をクリックします。ユーザー ID をクリックすると、ユーザー・プロファイルの設定を表示できます。
4. 編集するユーザー ID の横にある更新アイコンをクリックします。
5. 「更新: ユーザー構成 (Update: User Configuration)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
時間帯	オプション。ユーザーの時間帯を選択します。
テクニカル・ユーザー (Technical user)	オプション。このオプションは、ユーザー・タイプで EBICS Client User を選択した場合に有効になります。テクニカル・ユーザーを構成するには、このチェック・ボックスを選択します。テクニカル・ユーザーとは、バックエンド・システムを使用して、非テクニカル (ヒューマン・ユーザー) の EBICS Client ユーザーの代理としてオーダーを送信するように構成された EBICS Client ユーザーです。
証明書タイプ	ユーザー・タイプとして EBICS Client ユーザーを選択した場合は必須です。X.509 公開鍵証明書を使用して証明書を認可する場合は、「X509 (X509)」を選択します。RSA キーを使用して証明書を認可する場合は「キー」を選択します。 注: EBICS Client は、暗号化されていない鍵のみをサポートします。

6. 証明書タイプとして「X509 (X509)」を選択した場合は、「テクニカル情報 (Technical Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
認証プライベート証明書 (Authentication private certificate)	必須。EBICS Client が使用する秘密鍵を選択して、銀行に送信される要求におけるユーザーのデジタル署名を作成します。銀行が権限を検証するには、キーの公開部分を所有している必要があります。ドロップダウンには、Sterling B2B Integrator システム証明書ストアで構成された証明書のリストが組み込まれます。

フィールド	説明
認証パブリック証明書 (Authentication public certificate)	必須。ユーザーが銀行に提供する公開鍵を選択します。これは、EBICS Client から受信する要求におけるユーザーの権限の検証に使用されます。取引パートナーおよびユーザーは、銀行と鍵を共有します。この鍵は、認証プライベート証明書として選択された Sterling B2B Integrator システム証明書のパブリック部分でなければなりません。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	認証証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は X002 です。
暗号化プライベート証明書	必須。EBICS Client が EBICS Banking Server から受信した応答の暗号化解除に使用する秘密鍵を選択します。ドロップダウンには、Sterling B2B Integrator システム証明書ストアで構成された証明書のリストが組み込まれます。
暗号化パブリック証明書	必須。暗号化プライベート証明書として選択された Sterling B2B Integrator システム証明書のパブリック部分を選択します。取引パートナーおよびユーザーは、銀行と鍵を共有します。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	暗号化証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は E002 です。
電子署名にハードウェア鍵ストアを使用 (Use hardware key-store for Electronic signature)	オプション。銀行に登録され、アクティブな 3S キー・トークンがある場合は、このオプションを選択します。
ハードウェア・キー・タイプ (Hardware key type)	3S キーがハードウェア・キー・タイプとして表示されます。3SKey は、デジタル ID に使用される SWIFT セキュア・シグニチャー・キーです。3SKey トークンをアクティブにして、このキーを銀行に登録し、署名および銀行へのメッセージ送信を使用可能にする必要があります。
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	オプション。電子署名にハードウェア・キーを使用しない場合は、電子署名 (ES) 証明書の秘密鍵を選択します。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	必須。オーダー・データの署名の検証に使用される電子署名 (ES) 証明書の公開鍵を選択します。電子署名証明書の公開鍵値は、認証または暗号化証明書と同じにはできません。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	電子署名にハードウェア鍵ストアを使用しない場合は必須です。電子署名証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は A005 および A006 です。  電子署名にハードウェア鍵ストアを使用している場合は、鍵バージョンが A005 に設定され、変更はできません。

7. 証明書タイプとして「キー」を選択した場合は、「テクニカル情報 (Technical Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
認証秘密鍵 (Authentication private key)	必須。「参照」をクリックして、認証キーの秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
認証公開鍵 (Authentication public key)	必須。「参照」をクリックして、認証キーの公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	必須。認証証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は X002 です。
暗号化秘密鍵 (Encryption private key)	必須。「参照」をクリックして、暗号鍵の秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
暗号化公開鍵 (Encryption public key)	必須。「参照」をクリックして、暗号鍵の公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	必須。暗号化証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は E002 です。
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	必須。「参照」をクリックして、電子署名の秘密部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	必須。「参照」をクリックして、電子署名キーの公開部分が含まれるファイルを使用コンピューターから選択します。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	必須。電子署名証明書の鍵バージョンを選択します。有効な値は A005 および A006 です。

8. 「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、次の操作を実行し、「次へ (Next)」をクリックします。
- 追加アイコンをクリックして、新規のパートナーをユーザーに関連付けます。
  - 編集するパートナーの横にある更新アイコンをクリックします。
  - 削除アイコンをクリックして、ユーザーからパートナーとの関連を解除します。
9. このステップは、新しいパートナーの追加または既存のパートナーの編集を選択した場合にのみ適用されます。銀行はオファーに基づいて、権限、オーダーのタイプ、ファイル形式のセットをユーザーに割り当てます。「関連パートナー: ユーザー設定 (Associated Partners: User Settings)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「パートナーの追加 (Add partner)」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	<p>必須。「パートナー名 (Partner name)」ドロップダウン・リストから、ユーザーが関連付けられているパートナーを選択します。ユーザーは複数のパートナーに関連付けることができます。</p> <p><b>注:</b> Sterling B2B Integrator ダッシュボードを使用して、取引パートナー・エンティティを作成します。</p>
アップロード・メールボックス・パス (Upload mailbox path)	<p>必須。アップロード・メールボックスを構成して、Sterling B2B Integrator のメールボックスを操作するユーザーを割り当てます。アップロードされたメッセージのメールボックス・パスを指定します。EBICS 要求からアンパックされたメッセージを保管するには、メールボックス・パスを割り当てる必要があります。</p> <p>メールボックス (ユーザー ID、パートナー名、受信ボックス) が既に Sterling B2B Integrator に存在する場合、このフィールドを空白のままにすると、デフォルトのメールボックス・パスを指定するように求めるエラー・メッセージが表示されます。</p> <p><b>注:</b> メールボックス・パスの先頭には、必ずスラッシュ (/) を付けてください。</p>
ダウンロード・メールボックス・パス (Download mailbox path)	<p>必須。ダウンロード・メールボックスを構成して、Sterling B2B Integrator のメールボックスを操作するユーザーを割り当てます。ダウンロードされたメッセージのメールボックス・パスを指定します。EBICS 応答の一部としてパッケージ化されるメッセージを保管するには、メールボックス・パスを割り当てる必要があります。</p> <p>メールボックス (ユーザー ID、パートナー名、送信ボックス) が既に Sterling B2B Integrator に存在する場合、このフィールドを空白のままにすると、デフォルトのメールボックス・パスを指定するように求めるエラー・メッセージが表示されます。</p> <p><b>注:</b> メールボックス・パスの先頭には、必ずスラッシュ (/) を付けてください。</p>

10. このステップは、テクニカル・ユーザーのユーザー委任設定の構成を選択した場合のみ適用されます。「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、次の操作を実行し、「次へ (Next)」をクリックします。

- 追加アイコンをクリックして、新規のパートナーをテクニカル・ユーザーに関連付けます。
- 編集するパートナーの横にある更新アイコンをクリックします。

- 削除アイコンをクリックして、テクニカル・ユーザーからパートナーとの関連を解除します。
11. このステップは、テクニカル・ユーザーのユーザー委任設定を構成している場合のみ適用されます。「関連パートナー: ユーザー設定 (Associated Partners: User Settings)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「パートナーの追加 (Add partner)」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。「パートナー名 (Partner name)」ドロップダウン・リストから、ユーザーが関連付けられているパートナーを選択します。ユーザーは複数のパートナーに関連付けることができます。 注: Sterling B2B Integrator ダッシュボードを使用して、取引パートナー・エンティティーを作成します。
委任者 (Delegate of)	必須。タスクをテクニカル・ユーザーに委任するユーザーを選択します。

12. 「関連パートナー (Associated Partners)」ページで、「次へ (Next)」をクリックします。
13. 「確認 (Confirm)」ページで、ユーザーの構成設定を確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。また、関連パートナー (Associate Partners)」の横にある「すべてを表示」リンクをクリックすると、ユーザーに関連付けられたパートナーのリストを表示することもできます。

---

## ユーザー・プロファイルの削除

### このタスクについて

ユーザー・プロファイルを削除するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「ユーザー」を選択します。
3. 「検索」または「リスト」を使用して、削除するユーザー ID を探し、「GO」をクリックします。
4. 削除するユーザー ID の横にある削除アイコンをクリックします。

注: ユーザー・プロファイルを削除しても、既に作成済みの対応するメールボックスは削除されません。

## 銀行プロフィールの作成

### このタスクについて

銀行プロフィールには EBICS ホスト情報が格納されます。

銀行プロフィールを作成するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロフィール管理 (Profile Management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「プロフィール」を選択します。
3. 「銀行の構成 (Bank Configuration)」ページで、「銀行の作成 (Create Bank)」の横にある「GO」をクリックします。
4. 「銀行情報 (Bank Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
銀行 ID (ホスト ID)(Bank ID (Host ID))	必須。銀行 ID、または銀行から提供されたホスト ID を入力します。これは銀行のシステムにおける銀行の固有 ID です。
銀行名 (Bank Name)	必須。銀行の名前を指定します。
ステータス	銀行鍵の検証前は、銀行のステータスが新規に設定されます。検証が正常完了すると、このステータスがアクティブに変更されます。ステータスは編集できません。
RSA 優先 (Is RSA preferred)	オプション。EBICS Client で電子署名、認証、および暗号化に RSA キーを使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。アップロード・キー・タイプにかかわらず、EBICS Client で電子署名、認証、および暗号化に RSA 関連値のみが使用されるようになります。
住所行 1 (Address Line 1)	オプション。銀行の住所を指定します。
住所行 2 (Address Line 2)	オプション。銀行の住所を指定します。
市区町村 (City)	オプション。銀行が所在する市区町村名を指定します。
都道府県 (State or Province)	オプション。都道府県の名前を指定します。
国/地域	オプション。国または地域を選択します。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	オプション。郵便番号を指定します。
E メール・アドレス (E-mail Address)	オプション。銀行の E メール・アドレスを指定します。
電話番号 (Telephone Number)	オプション。電話番号を指定します。国コードも入力してください。

5. 「URL の関連付け (Associate URL)」ページで、「URL の関連付け (Associate Url)」の横にある追加アイコンをクリックし、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定して、「URL の追加 (Add Url)」をクリックします。

URL 別名	必須。銀行 URL に短い名前を指定します。ブラウザのアドレス・フィールドに短い名前か別名を入力することによって、銀行の Web サイトにナビゲートできます。例えば、URL <code>http://www.banksystem.com</code> の URL 別名として <code>bs</code> を指定した場合、ブラウザのアドレス・フィールドに <code>bs</code> を入力すると Web サイトが表示されます。
デフォルトである	オプション。URL フィールドに指定された URL がデフォルト URL であると示すには、このチェック・ボックスを選択します。オーダー送信時に「オーダー情報」ページの「銀行 URL (Bank URL)」フィールドで URL が指定されていない場合、EBICS Client では「銀行 URL (Bank URL)」フィールドにデフォルト URL が取り込まれます。  銀行 URL の別名 が指定されていない場合は、テクニカル・ユーザーがオーダーを送信する際にデフォルト URL がオーダーの送信に使用されます。
銀行 URL (Bank URL)	必須。銀行がホストする HTTP URL を指定します。1 つの銀行に複数の URL を指定することができ、少なくとも 1 つは URL が必要です。Uniform Resource Locator (URL) は、ポートで聴取を行い、発生次第 EBICS 要求を受信するように HTTP Server アダプターで構成されます。 注: 銀行 ID ごとに固有のポート番号または URL が必要です。
銀行 HTTPS 証明書 (Bank https certificate)	オプション。ドロップダウン・リストから、銀行に適切な HTTPS 証明書を選択します。HTTPS 証明書によって、銀行とのすべての取引が暗号化され、保護されることが保証されます。

追加が正常に完了すると、「URL の関連付け (Associate URL)」ページに銀行 URL の詳細が表形式で表示されます。

6. 「次へ (Next)」をクリックします。
7. 「確認 (Confirm)」ページで、銀行の構成設定を確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。

## 銀行プロファイルの検索

### このタスクについて

銀行プロファイルを検索するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。

2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「プロフィール」を選択します。
3. 「銀行の構成 (Bank Configuration)」ページで、次のいずれかの操作を行い、「GO」をクリックします。
  - 「検索」の「銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(HostID))」フィールドに検索する銀行プロフィールの銀行 ID の一部または銀行 ID 全体を入力します。
  - 「リスト」の「アルファベット順 (Alphabetically)」ドロップダウン・リストから、検索する銀行の ID の先頭文字を選択します。

## 銀行プロフィールの編集

### このタスクについて

銀行プロフィールを編集するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「プロフィール」を選択します。
3. 「銀行の構成 (Bank Configuration)」ページで、「検索」、または「リスト」を使用して編集する銀行 ID を探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 編集する銀行 ID の横にある更新アイコンをクリックします。
5. 「銀行情報 (Bank Information)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID (Host ID))	必須。銀行の ID を指定します。
銀行名	必須。銀行の名前を指定します。
ステータス	銀行鍵の検証前は、銀行のステータスが新規に設定されます。検証が正常完了すると、ステータスが「有効」に変更されます。ステータスは編集できません。
RSA 優先 (Is RSA preferred)	オプション。EBICS Client で電子署名、認証、および暗号化に RSA キーを使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。アップロード・キー・タイプにかかわらず、EBICS Client で電子署名、認証、および暗号化に RSA 関連値のみが使用されるようになります。
住所行 1 (Address Line 1)	オプション。銀行の住所を指定します。
住所行 2 (Address Line 2)	オプション。銀行の住所を指定します。
市区町村 (City)	銀行が所在する市区町村名を指定します。
都道府県 (State or Province)	オプション。都道府県の名前を指定します。
国/地域	オプション。国または地域を選択します。
郵便番号 (Zip or Postal Code)	オプション。郵便番号を指定します。
時間帯	オプション。タイム・ゾーンを選択します。

フィールド	説明
E メール・アドレス (E-mail Address)	オプション。銀行の E メール・アドレスを指定します。
電話番号 (Telephone Number)	オプション。電話番号を指定します。国コードも入力してください。

6. 「URL の関連付け (Associate URL)」 ページで、編集する銀行 ID の横にある更新アイコンをクリックし、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定して、「URL の追加 (Add Url)」 をクリックします。

URL 別名	必須。銀行 URL に短い名前を指定します。ブラウザのアドレス・フィールドに短い名前か別名を入力することによって、銀行の Web サイトにナビゲートできます。例えば、URL <a href="http://www.banksystem.com">http://www.banksystem.com</a> の URL 別名として、 <i>bs</i> を指定した場合、ブラウザのアドレス・フィールドに <i>bs</i> を入力すると、銀行の Web サイトが表示されます。
デフォルトである	オプション。URL フィールドに指定された URL がデフォルト URL であるとするには、このチェック・ボックスを選択します。オーダー送信時に「オーダー情報」ページの「銀行 URL (Bank URL)」 フィールドで URL が指定されていない場合、EBICS Client では、「銀行 URL (Bank URL)」 フィールドにデフォルト URL が取り込まれます。  銀行 URL の別名 が指定されていない場合は、テクニカル・ユーザーがオーダーを送信する際にデフォルト URL がオーダーの送信に使用されます。
銀行 URL (Bank URL)	必須。銀行がホストする HTTP URL を指定します。1 つの銀行に複数の URL を指定することができ、少なくとも 1 つは URL が必要です。Uniform Resource Locator (URL) は、ポートで聴取を行い、発生次第 EBICS 要求を受信するように、HTTP Server アダプターで構成されます。 <b>注:</b> 銀行 ID ごとに固有のポート番号または URL が必要です。
銀行 HTTPS 証明書 (Bank https certificate)	オプション。ドロップダウン・リストから、銀行に適切な HTTPS 証明書を選択します。HTTPS 証明書によって、銀行とのすべての取引が暗号化され、保護されることが保証されます。

7. 「次へ (Next)」 をクリックします。
8. 「確認 (Confirm)」 ページで、銀行の構成設定を確認し、「完了 (Finish)」 をクリックします。

## 銀行プロファイルの削除

### このタスクについて

銀行プロファイルを削除するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「プロファイル」を選択します。
3. 「銀行の構成 (Bank Configuration)」ページで、「検索」、または「リスト」を使用して、削除する銀行 ID (ホスト ID) を選択し、「GO」をクリックします。
4. 削除する銀行 ID の横にある削除アイコンをクリックします。

## 銀行鍵の検証

### このタスクについて

銀行の ID および認証、および暗号鍵の認証性を確認するため、EBICS Client では、銀行から受信した証明書ハッシュ値を検証することができます。銀行鍵の検証が正常に完了すると、銀行のステータスが、アクティブに変更されます。銀行鍵を検証するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「銀行鍵の検証 (Bank key validation)」を選択します。
3. 「銀行鍵の検証 (Bank Key Validation)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定します。

フィールド	説明
銀行 ID (ホスト ID) (BankID(Host ID))	必須。ドロップダウン・リストから銀行 ID を選択します。
ID および認証キーのハッシュ値 (16 進形式)	必須。ID および認証キーのハッシュ値は銀行から提供されます。
ハッシュ・アルゴリズム (Hash Algorithm)	必須。識別および認証キーのハッシュ値のハッシュ・アルゴリズムを選択します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SHA1 (デフォルト)</li><li>• SHA256</li></ul>
暗号鍵ハッシュ値 (16 進形式) (Encryption key hash value(In hex format))	必須。銀行から提供される暗号鍵ハッシュ値を指定します。

フィールド	説明
ハッシュ・アルゴリズム (Hash Algorithm)	<p>必須。暗号キーのハッシュ値のハッシュ・アルゴリズムを選択します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SHA1 (デフォルト)</li> <li>• SHA256</li> </ul>

4. 既存の値をクリアし、新しい値を入力するには、「リセット (Reset)」をクリックします。
5. 「検証 (Validate)」をクリックします。

## オファーの作成

### このタスクについて

オファーを使用すると、パートナーではオーダーのタイプとファイル形式のセットをグループ化して、まとめて処理することができます。オファーは、特定の銀行 ID と関連付ける必要があります。1 つの銀行に使用可能なオファーは 1 つに限られます。オファーを作成するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「オファー構成 (Offer configurations)」を選択します。
3. 「オファー構成 (Offer Configuration)」ページで、「新規オファーの作成 (Create new offer)」の横にある「GO」をクリックします。
4. 「作成: オファー (Create : Offer)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「終了」をクリックします。

フィールド	説明
オファー名 (Offer Name)	必須。オファーの名前を指定します。
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(Host ID))	必須。ドロップダウン・リストから銀行 ID を選択します。
ファイル形式構成へのオーダーのタイプの関連付け/関連解除 (Associate/Disassociate order type to file formats configuration)	オプション。オーダーのタイプの横にあるチェック・ボックスを選択します。選択したオーダーのタイプと対応するファイル形式がグループとしてオーダーの構成に使用されます。

## オファーの検索

### このタスクについて

オファーを検索するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。

2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「オファー構成 (Offer configurations)」を選択します。
3. 「オファー構成 (Offer Configuration)」ページで、以下のいずれかの操作を行い、「GO」をクリックします。
  - 「検索」の銀行 ID (Bank ID (HostID)) フィールドで、検索するオファーと関連付けられている銀行 ID の一部または銀行 ID 全体を入力します。
  - 「リスト」の「アルファベット順 (Alphabetically)」 ドロップダウン・リストから、検索するオファー名の先頭文字を選択します。

---

## オファーの編集

### このタスクについて

オファーを編集するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「オファー構成 (Offer configurations)」を選択します。
3. 「オファー構成 (Offer Configuration)」ページで、「検索」または「リスト」を使用して、編集するオファーを探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 編集するオファーの横にある更新アイコンをクリックします。
5. 「更新: オファー (Update : Offer)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「終了」をクリックします。

フィールド	説明
ファイル形式構成へのオーダーのタイプの関連付け/関連解除 (Associate/Disassociate order type to file formats configuration)	オプション。オーダーのタイプの横にあるチェック・ボックスを選択します。選択したオーダーのタイプと対応するファイル形式がグループとしてオーダーの構成に使用されません。

---

## オファーの削除

### このタスクについて

オファーを削除するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロフィール管理 (Profile management)」メニューから、「銀行 (Bank)」 > 「オファー構成 (Offer configurations)」を選択します。
3. 「オファー構成 (Offer Configuration)」ページで、「検索」または「リスト」を使用して、削除するオファーを探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 削除するオファーの横にある削除アイコンをクリックします。

---

## ファイル形式の作成

### このタスクについて

EBICS Client では、ファイル形式を追加して、銀行特有のアップロード (FUL) およびダウンロード (FDL) オーダー・タイプに関連付けることができます。1つのオーダーのタイプに複数のファイル形式を指定することもできますが、ファイル形式を指定しなくてもかまいません。FUL および FDL オーダー・タイプのファイル形式は、SWIFTNet 要求タイプをベースとします。SWIFTNet の詳細は、<http://www.swift.com/> を参照してください。ファイル形式を作成するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「ファイル形式 (File formats)」を選択します。
3. 「ファイル形式の構成 (File Format Configuration)」ページで、「ファイル形式の作成 (Create File Format)」の横にある「GO」をクリックします。
4. 「作成: ファイル形式 (Create : File Format)」ページで、次の表に示されたフィールドの値を入力し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
ファイル形式	必須。ファイル形式の名前を指定します。ファイル形式名の最初の部分は、以下のエレメントのいずれかにする必要があります。エレメントは取引のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• pain.- 支払開始</li><li>• camt. - 資金管理</li><li>• tsrv. - 取引サービス</li><li>• tsmt. - 取引サービス管理</li></ul>
国/地域	必須。ドロップダウン・リストから国または地域を選択します。
サポートされるオーダー・タイプ (Supported order types)	必須。ファイル形式がサポートされるオーダー・タイプを選択します。

5. 「確認」ページで、ファイル形式の設定を検証し、「終了」をクリックします。

---

## ファイル形式の検索

### このタスクについて

ファイル形式を検索するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」メニューから、「ファイル形式 (File formats)」を選択します。

3. 「ファイル形式の構成 (File Format Configuration)」 ページで、以下のいずれかの操作を行い、「GO」をクリックします。
  - 「検索」の「ファイル形式 (File format)」 フィールドで、検索するファイル形式名の一部、または ファイル形式名全体を入力します。
  - 「リスト」の「アルファベット順 (Alphabetically)」 ドロップダウン・リストから、検索するファイル形式の先頭文字を選択します。
4. ファイル形式のリンクをクリックして、ファイル形式の設定を表示します。

---

## ファイル形式の編集

### このタスクについて

ファイル形式を編集するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」 メニューから、「ファイル形式 (File formats)」を選択します。
3. 「ファイル形式の構成 (File Format Configuration)」 ページで、「検索」または「リスト」を使用して、編集するファイル形式を探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 編集するファイル形式の横にある更新アイコンをクリックします。
5. 「更新: ファイル形式 (Update: File Format)」 ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
国/地域	必須。ドロップダウン・リストから国または地域を選択します。
サポートされるオーダー・タイプ (Supported order types)	必須。ファイル形式がサポートされるオーダー・タイプを選択します。

6. 「確認」 ページで値を検証して、「終了」をクリックします。

---

## ファイル形式の削除

### このタスクについて

ファイル形式を削除するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「プロファイル管理 (Profile management)」 メニューから、「ファイル形式 (File formats)」を選択します。
3. 「ファイル形式の構成 (File Format Configuration)」 ページで、「検索」または「リスト」を使用して、削除するフォーマットを探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 削除するファイル形式の横にある削除アイコンをクリックします。

## 第 6 章 ユーザー・アクセス権限の構成

ユーザーの権限は、特定の EBICS Client ユーザーが EBICS Client 上で処理可能なオファー、オーダーのタイプ、およびファイル形式を定義します。1 件のユーザーに対して、次の権限タイプのいずれか 1 つを割り当てることができます。

- 署名者: 署名者または署名者によるオーダーの署名。送信者は、必要な署名の取得後に限り、オーダーを送信できます。
- 送信者: 送信者は、指定された署名者がオーダーに署名した後に、オーダーを送信することができます。

表 2. 権限レベル

権限レベル (Authorization level)	権限タイプ	説明
E	署名者	単一の署名。E は最強の権限レベルです。
A	署名者	1 次署名
B	署名者	2 次署名
T	送信者	トランスポート署名。トランスポート署名は銀行特有のオーダーの許可に使用されるのではなく、銀行のシステムへの許可された送信に使用されます。

電子署名 (ES) の値が 1 に設定されている場合、オーダーの処理には、E または A の権限レベルの単一署名で十分です。ES の値が 2 に設定されている場合、オーダーの処理には E または A と B の組み合わせが要求されます。ただし、フランスの銀行では、権限レベル T および E のみがサポートされます。キー管理オーダーの場合は、ES 値が 0 に設定されます。

注: EBICS の仕様では、オーダーの処理で、2 つの 2 次 ES 権限レベル (つまり権限レベル B) の組み合わせは許可されません。

## ユーザー権限の作成

### このタスクについて

ユーザーの権限を作成するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「権限 (Permissions)」メニューから「ユーザー権限 (User permissions)」を選択します。
3. 「ユーザー権限の構成 (User Permission Configurations)」ページで、**新規権限の作成 Create new permission**」の横にある「GO」をクリックします。
4. 「作成: 権限情報 (Create : Permission Information)」ページで、「オファー名 (Offer name)」ドロップダウン・リストからユーザー権限を構成するオファーの名前を選択します。オファーに関連付けられた銀行 ID が表示されます。権限を追加する追加アイコンも表示されます。

5. 追加アイコンをクリックします。「権限の追加 (Add permission)」ページが表示されます。
6. 「権限の追加 (Add permission)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「署名の追加 (Add signatories)」の横にある追加アイコンをクリックします。

フィールド	説明
オーダーのタイプとファイル形式 (Order type and File format)	必須。オファーに関連付けられたオーダー・タイプとファイル形式がデフォルトで選択されています。一部のオーダー・タイプおよびファイル形式の処理について、ユーザーに制限を適用するには、そのオーダー・タイプおよび関連付けられているファイル形式の横にあるチェック・ボックスをクリアします。
必要な署名の最小数	必須。オーダーの処理に必要な署名の数を指定します。

7. 「署名の追加 (Add signatory)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「署名の追加 (Add signatory)」をクリックします。

フィールド	説明
ユーザー ID	必須。ドロップダウン・リストから権限を割り当てるユーザーの ID を選択します。
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストから、ユーザーに関連付けられたパートナーの名前を選択します。
権限タイプ (Permission type)	必須。以下の権限タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 署名者</li> <li>• 送信者</li> </ul>
権限レベル (Authorization level)	必須。権限タイプとして「送信者」を選択した場合、権限レベル T がユーザーに割り当てられます。ドロップダウン・リストからすべての権限レベルを選択する必要はありません。 <p>権限タイプとして署名者を選択した場合は、ドロップダウン・リストから以下のいずれかの権限レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• E: 単一署名</li> <li>• A: 1 次署名</li> <li>• B: 2 次署名</li> </ul>

8. 「保存」をクリックして、「終了」をクリックします。

---

## ユーザー・アクセス権限の検索

### このタスクについて

ユーザー・アクセス権限を検索するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「権限 (Permissions)」メニューから、「ユーザー権限 (User permissions)」を選択します。
3. 「ユーザー権限の構成 (User Permission Configuration)」ページで、次の操作のいずれかを実行し、「GO」をクリックします。
  - 「検索S」の「オファー名 (Offer name)」フィールド、または「銀行 (ホスト ID) (Bank(Host ID))」フィールドで、ユーザー権限を構成するオファー名か銀行 ID の一部、または全部を入力します。
  - 「リスト」の「アルファベット順 (Alphabetically)」ドロップダウン・リストから、ユーザー権限を構成するオファー名、または銀行 ID の先頭文字を選択します。

---

## ユーザー・アクセス権限の編集

### このタスクについて

ユーザー・アクセス権限を編集するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「権限 (Permissions)」メニューから、「ユーザー権限 (User permissions)」を選択します。
3. 「ユーザー権限の構成 (User Permission Configuration)」ページで、「検索」または「リスト」を使用して、ユーザー権限を編集するオファーを探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 編集するユーザー権限の横にある更新アイコンをクリックします。
5. 「更新: 権限情報 (Update: Permission Information)」ページで、以下のいずれかを行います。
  - 「権限の追加 (Add permission)」の横にある追加アイコンをクリックして、ユーザー権限にファイル形式を追加します。
  - ファイル形式の横にある更新アイコンをクリックします。
  - ファイル形式の横にある削除アイコンをクリックします。
6. このステップは、権限の追加を選択した場合にのみ適用されます。「権限の追加 (Add permission)」ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「署名の追加 (Add signatories)」の横にある追加アイコンをクリックします。

フィールド	説明
オーダーのタイプとファイル形式 (Order type and File format)	必須。オファーに関連付けられたオーダー・タイプとファイル形式がデフォルトで選択されています。一部のオーダー・タイプおよびファイル形式の処理について、ユーザーに制限を適用するには、そのオーダー・タイプおよび関連付けられているファイル形式の横にあるチェック・ボックスをクリアします。
必要な署名の最小数	必須。オーダーの処理に必要な署名の数を指定します。

「署名の追加 (Add signatory)」 ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「署名の追加 (Add signatory)」 をクリックします。:

フィールド	説明
ユーザー ID	必須。ドロップダウン・リストから権限を割り当てるユーザーの ID を選択します。
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストから、ユーザーに関連付けられたパートナーの名前を選択します。
権限タイプ (Permission type)	必須。以下の権限タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>署名者</li> <li>送信者</li> </ul>
権限レベル (Authorization level)	必須。権限タイプとして「送信者」を選択した場合、権限レベル T がユーザーに割り当てられます。ドロップダウン・リストからすべての権限レベルを選択する必要はありません。 <p>権限タイプとして署名者を選択した場合は、ドロップダウン・リストから以下のいずれかの権限レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>E - 単一署名</li> <li>A - 1 次署名</li> <li>B - 2 次署名</li> </ul>

7. このステップは、権限の編集を選択した場合にのみ適用されます。「許可の編集 (Edit permission)」 ページで、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「保存」 をクリックします。

フィールド	説明
必要な署名の最小数	オプション。オーダーの処理に必要な署名の数を指定します。
「署名の追加 (Add signatories)」 の横にある追加アイコン	オプション。「署名の追加 (Add signatories)」 の横にある追加アイコンをクリックしてユーザー権限に署名を追加します。

フィールド	説明
更新アイコン	オプション。署名の横にある更新アイコンをクリックして、署名の設定を変更します。
削除アイコン	オプション。署名の横にある削除アイコンをクリックして、署名を削除します。

8. 「終了」をクリックします。

---

## ユーザー・アクセス権限の削除

### このタスクについて

ユーザー・アクセス権限を削除するには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「権限 (Permissions)」メニューから、「ユーザー権限 (User permissions)」を選択します。
3. 「ユーザー権限の構成 (User Permission Configuration)」ページで、「検索」または「リスト」を使用して、ユーザー権限を削除するオファーを探して選択し、「GO」をクリックします。
4. 削除するユーザー権限の横にある削除アイコンをクリックします。



---

## 第 7 章 ユーザーの初期化

銀行は取引パートナーと契約を結びます。契約では、銀行と取引パートナーの間で合意した商取引の条件が定義されます。銀行には、ユーザーのパブリック証明書がまだありません。ユーザーの初期化には、ユーザーのパブリック証明書を銀行のシステムに送信する必要があります。

識別、認証、電子署名 (ES)、および暗号化のサポート対象バージョンは、銀行パラメーターのコンポーネントです。ユーザーが適切な銀行特有のキーを持っていない場合や、新しい銀行接続に既存の銀行特有のキーを使用したくない場合は、ユーザーの銀行特有のキーを新しく生成する必要があります。識別、認証、および暗号化のキーについても同様です。

ユーザーは、次の 2 つの独立した通信パスを使用して、パブリック証明書を金融機関に送信します。

- INI: 銀行特有のパブリック・キーを送信。
- HIA: パブリック識別および認証キーとパブリック暗号キーを送信。

ユーザーが最初にパートナーに割り当てられたとき、ユーザーのステータスは「New (新規)」です。ユーザーが INI 要求のみを銀行に送信した場合、ステータスは「一部初期化済み (INI) (Partly Initialized (INI))」に変わります。ユーザーが HIA 要求のみを銀行に送信した場合、ステータスは「一部初期化済み (HIA) (Partly Initialized (HIA))」に変わります。ユーザーが INI 要求と HIA 要求の両方を銀行に送信すると、銀行のシステムではステータスが初期化済みに変わります。

ユーザーは、Sterling B2B Integrator EBICS Client ダッシュボード・インターフェースを使用してキーのハッシュ値を含む INI レターと HIA レターを生成し、手動で署名して、レターを銀行に郵送します。銀行が INI と HIA の初期化レターを受け取ると、レターのハッシュ値をデータベースと照合して検証します。検証が正常に完了すると、銀行のシステムでユーザーのステータスが有効に設定され、ユーザーが銀行との取引を実行できることが示されます。その後、ユーザーは HPB システム・オーダー・タイプを使用して銀行のパブリック証明書をダウンロードし、Sterling B2B Integrator EBICS Client ダッシュボード・インターフェースを使用してこの証明書を検証します。検証が正常に完了すると、銀行のステータスがアクティブに設定され、銀行との取引が可能になったことが示されます。

サブスクリイパーは、ステータスが有効に設定された後に、HKD および HTD のオーダー・タイプを使用して、銀行によって保管された情報を取得することができます。



## 第 8 章 オーダーの構成

### このタスクについて

「オーダー送信」ページは、オーダー設定の構成、およびオーダーの送信に利用できます。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ユーザー」メニューから、「**オーダー送信 (Order submission)**」を選択します。次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(Host ID))	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。
オーダー・タイプ・フィルター (Order type filter)	必須。ドロップダウン・リストで、以下から適切なオーダーを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• キー管理オーダー (Key management orders)</li><li>• 銀行特有のオーダー (Bank technical orders)</li><li>• VEU 管理オーダー (VEU management orders)</li><li>• 他のオーダータイプ (Other order types).</li></ul>
オーダーのタイプ	必須。ドロップダウン・リストから、必要なオーダーのタイプを選択します。  オーダーのタイプはオファーに割り当てられ、オーダーの種類を示す 3 桁の英数字コードで示されます。

オーダーのタイプは、EBICS Client ユーザーに構成されたユーザー権限に基づいて表示されます。

**注:** 「オーダー・タイプの構成 (Order Type Configuration)」ページに表示されるフィールドは、「**オーダーのタイプ**」ドロップダウンで選択したオーダーのタイプに応じて異なります。このため、適切なオーダーのタイプを選択することが重要です。例えば、オーダーのタイプとして INI を選択した場合、オーダーの構成では INI に固有のフィールドが表示されます。

3. 「キー管理 (Key management)」オーダー・タイプを選択した場合は、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「送信」をクリックします。

フィールド	説明
オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	オプション。ドロップダウン・リストから、オーダー ID 接頭部を選択します。EBICS Client は、銀行、ユーザー ID およびオーダーのタイプに基づいて各オーダーに固有のオーダー ID を割り振ります。クライアントは、EBICS の仕様に従ってオーダー ID を生成します。オーダー ID は、4 桁の英数字 ID です。オーダー ID の先頭文字は指定できます。オーダー ID の 2、3 および 4 番目の文字は、昇順の英数字 (A から Z、または 0 から 9) です。  このフィールドは、すべてのキー管理オーダー・タイプに適用されます。
セキュリティー・メディア (Security medium)	4 桁のセキュリティー番号がデフォルトで表示されます。INI、HIA、および HPB オーダー・タイプの場合、値を変更できません。
認証プライベート証明書 (Authentication private certificate)	必須。ドロップダウン・リストから、適切な認証プライベート証明書を選択します。
認証パブリック証明書 (Authentication public certificate)	必須。ドロップダウン・リストから、適切な認証パブリック証明書を選択します。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	認証証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は X002 です。
暗号化プライベート証明書	必須。ドロップダウン・リストから、適切な暗号化プライベート証明書を選択します。
暗号化パブリック証明書	必須。ドロップダウン・リストから、適切な暗号化パブリック証明書を選択します。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	暗号化証明書の鍵バージョンが表示されます。有効な値は E002 です。
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	必須。ドロップダウン・リストから、適切な電子署名秘密鍵を選択します。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	必須。ドロップダウン・リストから、適切な電子署名公開鍵を選択します。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	必須。ドロップダウン・リストから、適切な電子署名鍵バージョンを選択します。

4. 銀行特有のオーダー・タイプ・フィルターを選択した場合は、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「送信」をクリックします。

オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	オプション。ドロップダウン・リストから、オーダー ID 接頭部を選択します。EBICS Client は、銀行、ユーザー ID およびオーダーのタイプに基づいて各オーダーに固有のオーダー ID を割り振ります。クライアントは、EBICS の仕様に従ってオーダー ID を生成します。オーダー ID は、4 桁の英数字 ID です。オーダー ID の先頭文字は指定できます。オーダー ID の 2、3 および 4 番目の文字は、昇順の英数字 (A から Z、または 0 から 9) です。
セキュリティー・メディア (Security medium)	必須。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティー番号を入力します。
自動送信 (Autosubmit)	オプション。このチェック・ボックスは FUL オーダー・タイプにのみ適用可能で、デフォルトで選択されています。  自動送信オプションが選択されていると、必要な数の署名が収集された後にオーダーが自動的に送信されます。  自動送信オプションが選択されていない場合、EBICS Client ユーザーは EBICS Client ダッシュボード・インターフェースにログインして、保留中タスクの画面にナビゲートし、必要な数の署名の取得後にオーダーを送信する必要があります。
メールボックスのファイルを読み取る (Read file from mailbox)	必須。このオプションは FUL オーダー・タイプにのみ適用可能です。  メールボックスからペイロード・ファイルをアップロードするには、「はい」を選択します。「ファイルのアップロード」の横にある「ファイルの選択 (Select file)」をクリックします。「メールボックスにアップロードするファイルの選択 (Select file to upload to mailbox)」リストから、必要なファイルを選択し、「終了」をクリックします。  特定のファイルの場所からペイロード・ファイルをアップロードするには、「いいえ」を選択します。「ファイルのアップロード」の横にある「参照」をクリックして、そのファイルの場所にナビゲートして必要なファイルを選択します。
ファイル形式	必須。ドロップダウン・リストから、適切なファイル形式を選択します。
開始日	オプション。フィールドをクリックして、カレンダーから開始日を選択します。このオプションは、FDL オーダー・タイプにのみ適用されます。
終了日	オプション。フィールドをクリックして、カレンダーから終了日を選択します。このオプションは、FDL オーダー・タイプにのみ適用されます。

オーダー・パラメーター・リスト	<p>オプション。「パラメーターの追加」をクリックし、オーダーの変数を定義します。以下のオーダー・パラメーター・フィールドに関する情報を入力し、「パラメーターの追加」をクリックします。このオプションは、FDL オーダー・タイプにのみ適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 名前: 必須。パラメーターの固有名を入力します。パラメーター名には、スペースや特殊文字を使用しないでください。</li> <li>• 値: 必須。パラメーターの値を入力します。</li> <li>• タイプ: オプション。パラメーター・タイプを選択します。使用可能な選択項目は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- ストリング</li> <li>- 数値</li> <li>- ブール値</li> </ul> </li> </ul>
-----------------	--

5. VEU 管理オーダー・タイプ・フィルターを選択した場合は、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「送信」をクリックします。

オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	<p>オプション。ドロップダウン・リストから、オーダー ID 接頭部を選択します。EBICS Client は、銀行、ユーザー ID およびオーダーのタイプに基づいて各オーダーに固有のオーダー ID を割り振ります。クライアントは、EBICS の仕様に従ってオーダー ID を生成します。オーダー ID は、4 桁の英数字 ID です。オーダー ID の先頭文字は指定できます。オーダー ID の 2、3、および 4 番目の文字は、昇順の英数字 (A から Z、または 0 から 9) です。</p>
セキュリティ・メディア (Security medium)	<p>必須。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティ番号を入力します。</p>
VEU オーダー・タイプ (VEU order types)	<p>必須。「VEU オーダー・タイプ (VEU order types)」リストから適切な VEU オーダー・タイプを選択します。</p>
オーダー ID	<p>必須。HVE または HVS オーダー・タイプが送信されるオーダーの ID を指定します。</p>
パートナー ID	<p>必須。HVE または HVS オーダー・タイプが送信されるオーダーを送信したユーザーに関連付けられるパートナーの ID を指定します。</p>
オーダーのタイプ	<p>必須。HVE または HVS オーダー・タイプが送信されるオーダーのオーダー・タイプを選択します。</p>
MessageDigest	<p>オプション。オーダー・データのハッシュ値を送信するための MessageDigest を選択します。</p> <p><b>注:</b> ハッシュ値は、銀行に電話またはメールで要求できます。銀行は、代替通信モードで、オーダー・データのハッシュ値を送信します。例えば、電子メールなどです。</p>
PayloadMsgID	<p>オプション。メールボックスから完全なペイロードを送信するための PayloadMsgID を選択します。以下の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「選択」をクリックします。</li> <li>2. リストから必要なペイロードを選択します。</li> <li>3. 「終了」をクリックします。</li> </ol> <p><b>注:</b> ペイロードは、銀行に電話またはメールで要求できます。銀行は、EBICS Client メールボックスにペイロードを送信します。</p>

6. 「他のオーダー・タイプ (Other order types)」オーダー・タイプ・フィルターを選択した場合は、次の表の説明に従ってフィールドの値を指定し、「送信」をクリックします。

<p>オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)</p>	<p>オプション。ドロップダウン・リストから、オーダー ID 接頭部を選択します。EBICS Client は、銀行、ユーザー ID およびオーダーのタイプに基づいて各オーダーに固有のオーダー ID を割り振ります。クライアントは、EBICS の仕様に従ってオーダー ID を生成します。オーダー ID は、4 桁の英数字 ID です。オーダー ID の先頭文字は指定できます。オーダー ID の 2、3 および 4 番目の文字は、昇順の英数字 (A から Z、または 0 から 9) です。</p>
<p>セキュリティー・メディア (Security medium)</p>	<p>必須。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティー番号を入力します。</p>



## 第 9 章 ビューアー

次のトピックでは、イベント (トランザクション) の表示および検索オーダーの検索、保留中のタスクの完了の実行方法について説明します。

**注:** EBICS Client アプリケーションでは、イベントおよびオーダーのトランザクション時間は、GMT で保管されます。例えば、EBICS Client ユーザーが中央ヨーロッパ標準時間 (GMT+1) のタイム・ゾーンで構成されており、オーダーが 2011 年 2 月 3 日 午前 9:00 (GMT) に送信された場合、そのオーダーを検索するには、「オーダー検索」画面で開始日時として 2011 年 2 月 3 日 午前 10:00 を指定します。

### イベントの検索

#### このタスクについて

シンプル検索、または複数のパラメーターを使用して検索を絞り込む拡張検索を実行できます。検索の要件に応じて、以下を実行できます。

- ライブ・テーブルと履歴 (アーカイブ済み) テーブルのいずれかでイベント・レコードを検索するかの指定
- 日付範囲と時刻範囲の選択
- 検索結果を絞り込む追加パラメーターの指定

以下の手順は、検索基準に適合するイベント・レコードの検索、およびイベントの要約の取得に役立ちます。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ビューアー」メニューから、「イベント・ビューアー」を選択します。
3. 次の表のイベントの検索に関する情報を入力します。

フィールド	説明
検索場所 (Search location)	必須。適切な検索場所を選択します。オプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>ライブ・テーブル (Live tables):</b> このオプションはデフォルトで選択されています。このオプションを選択すると、ライブ・テーブル (現行) データベースでイベントが検索されます。</li><li>• <b>復元テーブル (Restore tables):</b> このオプションを選択すると、復元データベースでイベントが検索されます。</li></ul>
開始日	必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいて現在日付がデフォルトで入力されています。「開始日」フィールドをクリックすると、カレンダーが表示され、そのカレンダーから開始日を選択します。

フィールド	説明
終了日	必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいて現在日付がデフォルトで入力されています。「終了日」フィールドをクリックすると、カレンダーが表示され、そのカレンダーから終了日を選択します。
イベント・タイプ	オプション。ドロップダウン・リストから、適切なイベント・タイプを選択します。選択可能なイベント・タイプは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて (デフォルト)</li> <li>• 情報</li> <li>• Warning</li> <li>• エラー</li> <li>• クリティカル</li> </ul>
ユーザー ID	オプション。ドロップダウン・リストから、検索するイベントに関連するオーダーを開始した EBICS Client ユーザーのユーザー ID を選択します。EBICS Client ユーザーは、このオプションを使用できません。
開始時刻	必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいてデフォルトのシステム時刻が表示されます。「開始時刻」フィールドをクリックして開始時刻を選択します。
終了時刻	必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいてデフォルトのシステム時刻が表示されます。「終了時刻」フィールドをクリックして、終了時刻を選択します。
ソート順	オプション。以下のオプションを基準にして検索結果をソートできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日時 (デフォルト)</li> <li>• イベント・タイプ</li> <li>• イベント・コード (Event code)</li> <li>• オーダーのタイプ</li> <li>• オーダー ID</li> </ul> また、検索結果は昇順または降順でソートすることもできます。ドロップダウン・リストから、「昇順 (ASC)」または「降順 (DSC)」オプションを選択します。「降順 (DSC)」がデフォルトのオプションです。
最新表示速度	オプション。上矢印または下矢印を使用して、検索結果の最新表示頻度を指定します。
最新表示アイコン	オプション。デフォルトでは、検索結果の最新表示が使用不可 (OFF) になっています。最新表示アイコンをクリックすると、検索結果の最新表示が使用可能化 (ON) されます。

4. 「検索」をクリックします。イベントの要約が以下のように表形式で表示されず。

フィールド	説明
イベント・コード (Event Code)	イベント・コードのリンクをクリックすると、イベントの詳細が表示されます。

フィールド	説明
イベント・タイプ	生成されたイベントのタイプが表示されます。選択可能なイベント・タイプは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて</li> <li>• 情報</li> <li>• Warning</li> <li>• エラー</li> <li>• クリティカル</li> </ul>
ユーザー ID	EBICS Client 管理者がイベント検索を開始すると、オーダーの送信、オーダー構成の変更など、イベントのトリガーの責任者である EBICS Client ユーザーのユーザー ID が表示されます。EBICS Client ユーザーがイベント検索を開始すると、検索を開始したユーザーのユーザー ID が表示されます。
イベント名	イベント名が表示されます。
タイム・スタンプ	イベントが生成された日時が表示されます。
オーダーのタイプ	イベントが生成されたオーダーのタイプが表示されます。
オーダー ID	イベントが生成されたオーダーのオーダー ID が表示されます。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダーの詳細が表示されます。 注: 「オーダー詳細」ページでは、EBICS Client 管理者と EBICS Client オペレーターはオーダー文書リンクを表示できません。文書リンクは EBICS Client ユーザーのみに表示されます。

5. イベント検索のパラメーターをクリアするには、「リセット」をクリックします。検索パラメーターをリセットしても、前の検索結果はクリアされません。

## オーダーの検索

このページは、シンプルおよび拡張検索オプションの使用によるオーダーの検索、およびオーダー要約の取得に利用できます。

### このタスクについて

シンプル検索、または複数のパラメーターを使用して検索を絞り込む拡張検索を実行できます。検索の要件に応じて、以下のアクションを実行できます。

- ライブ・テーブルと履歴 (アーカイブ済み) テーブルのいずれかでオーダー・レコードを検索するかの指定
- 日付範囲と時刻範囲の選択
- 検索結果を絞り込む追加パラメーターの指定

以下の手順は、検索基準に適合するオーダー・レコードの検索、およびオーダーの要約の取得に役立ちます。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ビューアー」メニューから、「オーダー検索 (Order search)」を選択します。
3. 次の表のオーダーの検索に関する情報を入力します。

表 3. オーダーの検索

フィールド	説明
検索場所 (Search location)	<p>必須。適切な検索場所を選択します。オプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ライブ・テーブル (Live tables):</b> このオプションはデフォルトで選択されています。このオプションを選択すると、ライブ・テーブル (現行) データベースでオーダーが検索されます。</li> <li>• <b>復元テーブル (Restore tables):</b> このオプションを選択すると、復元データベースでオーダーが検索されます。</li> </ul>
開始日	<p>必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいて現在日付がデフォルトで入力されています。「開始日」フィールドをクリックすると、カレンダーが表示され、そのカレンダーから開始日を選択します。</p>
終了日	<p>必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいて現在日付がデフォルトで入力されています。「終了日」フィールドをクリックすると、カレンダーが表示され、そのカレンダーから終了日を選択します。</p>
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(Host ID))	<p>オプション。必要な銀行 ID を選択します。</p>
パートナー名 (Partner name)	<p>オプション。必要なパートナー名を選択します。</p>
ステータス (Status)	<p>オプション。適切なオーダー・ステータスを「ステータス」ドロップダウン・リストから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべて (デフォルト)</li> <li>• 「成功 (Success)」</li> <li>• 失敗</li> <li>• 進行中</li> <li>• クライアント側で保留中 (Pending at Client)</li> <li>• サーバー側で保留中 (Pending at Server)</li> </ul>
権限タイプ (Permission type)	<p>オプション。適切な権限タイプを選択します。オプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 送信者: このオプションはデフォルトで選択されています。オーダーの送信者を基準にしてオーダーの検索が実行されます。</li> <li>• 署名者 (Signer): オーダーの署名者を基準にしてオーダーを検索するには、このオプションを選択します。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダーの詳細が表示されます。署名者を基準にオーダーを検索した場合は、「オーダー・イベント (Order events)」、「アクティビティ」、および「保留中の署名 (Pending signatures)」の各タブは表示されません。</li> </ul>
ユーザー ID	<p>オプション。検索するオーダーを開始した EBICS Client ユーザーのユーザー ID をドロップダウン・リストから選択します。EBICS Client ユーザーは、このオプションを使用できません。</p>
開始時刻	<p>必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいてデフォルトのシステム時刻が表示されます。「開始時刻」フィールドをクリックして開始時刻を選択します。</p>

表 3. オーダーの検索 (続き)

フィールド	説明
終了時刻	必須。このフィールドには、ユーザーの構成時に指定された時間帯に基づいてデフォルトのシステム時刻が表示されます。「終了時刻」フィールドをクリックして、終了時刻を選択します。
オーダー ID	オプション。「オーダー ID」フィールドにオーダー ID を入力します。
オーダーのタイプ	オプション。「オーダーのタイプ」ドロップダウン・リストから適切なオーダー・タイプを選択します。
ファイル形式 (File Format)	オプション。ファイル形式 (File format)ドロップダウン・リストから適切なファイル形式を選択します。
ソート順	<p>オプション。以下のオプションのいずれかを基準にして、検索結果をソートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日時 (デフォルト)</li> <li>• オーダー ID</li> <li>• オーダーのタイプ</li> <li>• パートナー名 (Partner name)</li> <li>• 銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(Host ID))</li> <li>• ユーザー ID</li> </ul> <p>また、検索結果は昇順または降順でソートすることもできます。ドロップダウン・リストから、「昇順 (ASC)」または「降順 (DESC)」オプションを選択します。「降順 (DESC)」がデフォルトのオプションです。</p>
最新表示速度	オプション。上矢印または下矢印を使用して、検索結果の最新表示頻度を指定します。
最新表示アイコン	オプション。デフォルトでは、検索結果の最新表示が使用不可 (OFF) になっています。最新表示アイコンをクリックすると、検索結果の最新表示が使用可能化 (ON) されます。

4. 「検索」をクリックします。オーダー要約に以下の情報が表形式で表示されま  
す。

表 4. オーダー情報のフィールド

フィールド	説明
オーダー ID	<p>オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダーの詳細が表示されます。「オーダー要約」の詳細ページは、「<b>オーダー・データ (Order data)</b>」と「<b>オーダー詳細</b>」の 2 セクションに分かれています。「オーダー・データ (Order data)」セクションには、選択したオーダーに関する以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オーダー ID</li> <li>• オーダーのタイプ</li> <li>• ファイル形式</li> <li>• 署名数 (オーダーの送信に必要な署名)</li> <li>• 開始日時</li> <li>• 最終アクティビティの日時</li> <li>• パートナー名 (Partner name)</li> <li>• ユーザー ID</li> <li>• 銀行 ID (ホスト ID)</li> <li>• オーダーのステータス</li> <li>• 完了日時</li> </ul> <p>文書 (オーダー・ペイロード)。オーダー文書リンクは、EBICS Client ユーザーのみに表示されます。リンクをクリックすると、ペイロード (テクニカル・オーダーのアップロードおよびダウンロードの場合)、またはオーダー要求 XML (他のオーダー・タイプの場合) が表示されます。</p> <p>「オーダー詳細」セクションには以下の 3 つのタブがあります。</p> <p><b>オーダー・イベント (Order event)</b> データの圧縮、データのエンコード、EBICS パッケージ化の成功など、オーダーに関係するイベントについての情報が表示されます。</p> <p><b>アクティビティ</b> クライアントでの署名の保留、送信者による送信アクションなど、オーダーに関係するアクティビティについての情報が表示されます。アクティビティは以下のいずれかのステータスになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 進行中</li> <li>• 完了</li> <li>• 失敗</li> </ul> <p>INI、HIA、および HPB オーダー・タイプにはアクティビティが生成されません。</p> <p><b>保留中の署名 (Pending Signatures)</b> 選択したオーダーで署名が保留になっているユーザーがリストされます。</p>
ユーザー ID	オーダーを送信した EBICS Client ユーザーのユーザー ID。
パートナー名 (Partner name)	ユーザーに関連付けられたパートナーの名前が表示されます。

表 4. オーダー情報のフィールド (続き)

フィールド	説明
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID(Host ID))	EBICS Client ユーザーがオーダーを送信した銀行の銀行 ID またはホスト ID。これは銀行のシステムにおける銀行の固有 ID です。
オーダーのタイプ	オーダー・タイプが表示されます。
開始日時 (Start datetime)	開始日時が表示されます。
完了日時 (Completion datetime)	完了日時が表示されます。
ステータス (Status)	オーダーのステータスが表示されます。例: 成功、失敗、進行中、クライアント側で保留。

5. オーダー検索パラメーターをクリアするには、「リセット」をクリックします。検索パラメーターをリセットしても、前の検索結果はクリアされません。

## 保留中タスク

「保留中タスク (Pending Tasks)」ページは、Sterling B2B Integrator EBICS Client ユーザーのランディングページです。このページは、保留中オーダーの表示、および署名または送信に使用します。保留中オーダーの署名または送信を行うには、以下のステップを実行します。

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ビューアー」メニュー から、「保留中タスク (Pending tasks)」を選択します。保留中タスクが表形式で表示されます。

列名	説明
オーダー ID	オーダー ID を表示します。オーダーの要約を表示してオーダーに署名するには、オーダー ID をクリックします。ペイロードを表示するには、オーダー詳細ページのオーダー文書リンクをクリックします。
実行依頼者 ID	実行依頼者 ID を表示します。
銀行 ID (ホスト ID) (Bank ID (Host ID))	銀行 ID を表示します。
オーダーのタイプ	オーダーのタイプを表示します。
日時	日時形式でタイム・スタンプを表示します。
ステータス	オーダーのステータス、つまり、保留中であるか、失敗であるかを表示します。  必要なアクションに応じて、ステータスの横に「署名」、または「送信」リンクが表示されます。

- 保留中オーダーに署名するには、「署名」をクリックします。保留中オーダーを送信するには、「送信」をクリックします。
- EBICS Client ユーザーに対して電子署名のハードウェア・セキュリティーが構成されている場合は、「署名」をクリックすると、「電子署名 (Electronics Signatures)」ページが表示されます。次の表に記載されているフィールドに値を入力して、「署名」をクリックします。

フィールド	説明
プロバイダー名	PKCS11 ハードウェア署名モジュール (HSM) プロバイダーの名前が表示されます。
DLL の選択 (Select DLL)	「参照」をクリックして、適切な場所にナビゲートし、HSM の DLL ファイルを選択します。
PKCS11 プロバイダーの選択	「プロバイダーのロード (Load providers)」をクリックして、適切な場所にナビゲートし、PKCS11 サービス・プロバイダー・ファイルを選択します。プロバイダーをロードしたら、ドロップダウン・リストから適切なファイルを選択します。
暗証番号の入力	「暗証番号の入力 (Enter pin)」フィールドにセキュリティー暗証番号を入力します。
秘密鍵の選択 (Select private key)	「キーのロード (Load keys)」をクリックして、適切な場所にナビゲートし、鍵を選択します。鍵をロードしたら、ドロップダウン・リストから適切なファイルを選択します。

## 保留 VEU タスクの検索

分散電子署名 (VEU) によって、複数のサブスクライバーに、リモートでデータを送信できます。複数のサブスクライバーは、時間と場所に関係なく、オーダーをリモートで認可できます。

### 始める前に

保留 VEU タスクを検索するために、EBICS Client ユーザーは、HVU (ダウンロードされた VEU 概要) または HVZ (ハッシュ値などの追加情報を付加した、ダウンロードされた VEU 概要) オーダー・タイプを送信する必要があります。

### このタスクについて

以下のステップを行い、保留 VEU タスクを検索します。

#### 手順

- Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
- 「ユーザー」メニューから、「ビューアー」 > 「保留 VEU タスク」を選択します。
- 「保留 VEU タスク」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「検索」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (ホスト ID)	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。

要求が銀行に送信され、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

- 「オーダー送信」ページで「**拡張検索**」をクリックして、VEU 管理オーダーに追加検索条件を指定できます。
- 銀行からの応答が表示される場合は、「**キャンセル**」をクリックします。
- 検索条件を再入力するには、「**リセット**」をクリックします。

## 保留 VEU タスクの表示

### このタスクについて

以下のステップを行い、保留 VEU タスクを表示します。

#### 手順

- Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
- 「ユーザー」メニューから、「ビューアー」 > 「保留 VEU タスク」を選択します。
- 「保留 VEU タスク」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「**検索**」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (ホスト ID)	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。

要求が銀行に送信され、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

- 「保留 VEU タスク」ページの「検索結果」セクションで、検索結果で以下の情報を表示できます。

フィールド	説明
オーダーのタイプ	保留 VEU オーダーのオーダー・タイプ。例えば、FUL などです。

フィールド	説明
オーダー ID	保留 VEU オーダーのオーダー ID。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダー・データの情報が表示されます。
オーダー・データ・サイズ	解凍されたオーダー・データのサイズ (キロバイト)。
必要な署名	サーバーでのアクティブ化に必要な電子署名の総数。
完了した署名	オーダーの検証用に提供済みの署名の数。
ステータス	オーダーのステータスが表示されます。有効な値は「保留」と「完了」です。例えば、ユーザーがオーダーに署名済みだが、オーダーを検証するために追加の署名がオーダーに必要な場合、オーダーのステータスは、VEU ストアで「保留中」になります。オーダーに既に署名済みのユーザーは、保留ステータスのオーダーに署名することも、オーダーをキャンセルすることもできません。ただし、このユーザーは HVT または HVD オーダー・タイプを送信することができます。
日時	タイム・スタンプは日時形式で表示されます。

## 保留 VEU オーダーの詳細の取得 このタスクについて

以下のステップを行い、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ユーザー」メニューから、「ビューアー」 > 「保留 VEU タスク」を選択します。
3. 「保留 VEU タスク」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「検索」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (Host ID)	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。

要求が銀行に送信され、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

4. 「保留 VEU タスク」ページの「検索結果」セクションで、オーダー ID のリンクをクリックします。オーダー・データの詳細が表示されます。

フィールド	説明
オーダー ID	保留 VEU オーダーのオーダー ID。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダー・データの情報が表示されます。
オーダーのタイプ	保留 VEU オーダーのオーダー・タイプ。例えば、FUL などです。
オリジネーター・パートナー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーに関連付けられたパートナー ID。
オリジネーター・ユーザー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーのサブスクライバー ID。
オーダー・データが使用可能です	HVZ オーダー・タイプの送信後、オーダー・データを元の形式でダウンロードできるかどうかを示します。
オーダー詳細が使用可能です	HVU オーダー・タイプのオーダー情報。
オーダー・データ・サイズ	解凍されたオーダー・データのサイズ (キロバイト)。
日時	タイム・スタンプは日時形式で表示されます。
署名準備完了	オーダーが既にユーザーによって署名済みかどうかを示します。False は、オーダーが既にユーザーによって署名済みであることを示します。True は、オーダーがユーザーによって署名される準備ができていることを示します。
必要な署名	オーダーを許可するのに必要な署名の最小数を表示します。
完了した署名	<p>オーダーの検証を完了した署名の数。既に提供済みの電子署名の数および前の署名者に関する情報を示します。以下の署名者の詳細を表示するには、「署名者情報」のリンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パートナー名: 取引パートナーの名前</li> <li>• ユーザー ID</li> <li>• 名前: 署名者の名前</li> <li>• タイム・スタンプ</li> <li>• 許可レベル: 署名者の許可レベル</li> </ul>

フィールド	説明
「オーダー情報」リンク	<p>以下のオーダー情報の詳細を表示するには、「オーダー情報」リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 口座: 「アカウント情報」リンクをクリックして、口座名義人、通貨コード、口座の説明、口座名義人の役割、口座番号および銀行コードを表示します。</li> <li>• 金額: オーダー・トランザクションの金額を表示します。</li> <li>• 通貨コード: オーダー・トランザクションの通貨コードを表示します。</li> <li>• デビット</li> <li>• 実行日: オーダーの実行日を表示します。</li> <li>• 説明: 「説明」リンクをクリックして、署名者の説明および説明タイプを表示します。</li> </ul>

- 「オーダー・データ」ウィンドウで、以下のいずれかのオプションを選択して、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。
  - 「送信」ドロップダウン・リストから、「HVT - オーダー詳細」を選択すると、オーダー・データのトランザクション詳細を取得します。
  - 「送信」ドロップダウン・リストから、「HVT - オーダー・データの完了」を選択すると、完了したオーダー・データを取得します。
  - 「送信」ドロップダウン・リストから、HVD を選択すると、現在 VEU 処理中のオーダーの状態、およびサブスクライバーが署名者として許可されているオーダーの状態を取得します。サブスクライバーは、電子注記 (DisplayFile)、オーダー・ハッシュ値 (DataDigest)、および前の署名者 (SignerInfo) の形式で、オーダーに関する情報を受け取ります。
- 「VEU オーダー詳細」ウィンドウで、以下のパラメーターに値を指定します。

フィールド	説明
オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	ドロップダウン・リストからアルファベットを選択します。
セキュリティー・メディア (Security medium)	ユーザーの銀行特有のキーのセキュリティー・メディア。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティー番号を入力します。
銀行 URL (Bank URL)	ドロップダウン・リストから銀行 URL を選択します。
取り出し制限	「HVT - オーダー詳細」を選択した場合に有効です。completeOrderData 属性が false に設定されている場合に、送信されるオーダー詳細の最大数。デフォルト値は 100 です。有効な値は、任意の負ではない整数です。取り出す詳細の数を無制限にするには、0 を指定します。

フィールド	説明
取り出しオフセット	「HVT - オーダー詳細」を選択した場合に有効です。送信するトランザクション詳細の開始ポイントを示す、元のオーダー・ファイル内のオフセット位置。completeOrderData 属性が false に設定されている場合、このオフセット位置は、特定の順序の連続番号に適用されます。デフォルト値は 0 です。有効な値は、任意の負ではない整数です。

7. 「送信 (Submit)」をクリックします。

## 保留 VEU オーダーの署名

### 始める前に

保留 VEU オーダーに署名するには、以下の前提条件を満たしている必要があります。

- 「署名準備完了」パラメーターが True を表示
- 以下のいずれかの VEU オーダーが送信済み
  - HVZ
  - HVU および HVD
  - HVU および HVT - オーダー・データの完了

### このタスクについて

以下のステップを行い、保留 VEU オーダーに署名します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ユーザー」メニューから、「ビューアー」 > 「保留 VEU タスク」を選択します。
3. 「保留 VEU タスク」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「検索」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (ホスト ID)	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。

要求が銀行に送信され、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

4. 「保留 VEU タスク」ページで、オーダー ID のリンクをクリックします。オーダー・データの詳細が表示されます。

フィールド	説明
オーダー ID	保留 VEU オーダーのオーダー ID。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダー・データの情報が表示されます。
オーダーのタイプ	保留 VEU オーダーのオーダー・タイプ。例えば、FUL などです。
オリジネーター・パートナー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーに関連付けられたパートナー ID。
オリジネーター・ユーザー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーのサブスクライバー ID。
オーダー・データが使用可能です	HVZ オーダー・タイプの送信後、オーダー・データを元の形式でダウンロードできるかどうかを示します。
オーダー詳細が使用可能です	HVU オーダー・タイプのオーダー情報。
オーダー・データ・サイズ	解凍されたオーダー・データのサイズ (キロバイト)。
日時	タイム・スタンプは日時形式で表示されます。
署名準備完了	オーダーが既にユーザーによって署名済みかどうかを示します。False は、オーダーが既にユーザーによって署名済みであることを示します。True は、オーダーがユーザーによって署名される準備ができていることを示します。
必要な署名	オーダーを許可するのに必要な署名の最小数を表示します。
完了した署名	<p>オーダーの検証を完了した署名の数。既に提供済みの電子署名の数および前の署名者に関する情報を示します。以下の署名者の詳細を表示するには、「署名者情報」のリンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パートナー名: 取引パートナーの名前</li> <li>• ユーザー ID</li> <li>• 名前: 署名者の名前</li> <li>• タイム・スタンプ</li> <li>• 許可レベル: 署名者の許可レベル</li> </ul>

フィールド	説明
「オーダー情報」リンク	<p>以下のオーダー情報の詳細を表示するには、「オーダー情報」リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 口座: 「アカウント情報」リンクをクリックして、口座名義人、通貨コード、口座の説明、口座名義人の役割、口座番号および銀行コードを表示します。</li> <li>• 金額: オーダー・トランザクションの金額を表示します。</li> <li>• 通貨コード: オーダー・トランザクションの通貨コードを表示します。</li> <li>• デビット</li> <li>• 実行日: オーダーの実行日を表示します。</li> <li>• 説明: 「説明」リンクをクリックして、署名者の説明および説明タイプを表示します。</li> </ul>

5. 「オーダーに署名」をクリックします。

6. 「VEU オーダー詳細」ウィンドウで、以下のパラメーターに値を指定します。

フィールド	説明
オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	ドロップダウン・リストからアルファベットを選択します。
セキュリティ・メディア (Security medium)	ユーザーの銀行特有のキーのセキュリティ・メディア。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティ番号を入力します。
銀行 URL (Bank URL)	ドロップダウン・リストから銀行 URL を選択します。

7. 「送信 (Submit)」をクリックします。

## 保留 VEU オーダーのキャンセル

### 始める前に

保留 VEU オーダーをキャンセルするには、以下の前提条件を満たしている必要があります。

- 「署名準備完了」パラメーターが True を表示
- 以下のいずれかの VEU オーダーが送信済み
  - HVZ
  - HVU および HVD
  - HVU および HVT - オーダー・データの完了

### このタスクについて

以下のステップを行い、保留 VEU オーダーをキャンセルします。

## 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「ユーザー」メニューから、「ビューアー」 > 「保留 VEU タスク」を選択します。
3. 「保留 VEU タスク」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「検索」をクリックします。

フィールド	説明
パートナー名 (Partner name)	必須。ドロップダウン・リストからパートナー名を選択します。
銀行 ID (Host ID)	必須。ドロップダウン・リストから、パートナーに関連付けられた銀行 ID を選択します。
銀行 URL (Bank URL)	必須。ドロップダウン・リストから必要な銀行 URL を選択します。選択した URL は、EBICS Banking Server との HTTP または HTTPS セッションの確立に使用されます。

要求が銀行に送信され、保留 VEU オーダーの詳細を取得します。

4. 「保留 VEU タスク」ページの「検索結果」セクションで、オーダー ID のリンクをクリックします。オーダー・データの詳細が表示されます。

フィールド	説明
オーダー ID	保留 VEU オーダーのオーダー ID。オーダー ID のリンクをクリックすると、オーダー・データの情報が表示されます。
オーダーのタイプ	保留 VEU オーダーのオーダー・タイプ。例えば、FUL などです。
オリジネーター・パートナー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーに関連付けられたパートナー ID。
オリジネーター・ユーザー ID	アップロードされたオーダー・タイプを送信したユーザーのサブスクライバー ID。
オーダー・データが使用可能です	HVZ オーダー・タイプの送信後、オーダー・データを元の形式でダウンロードできるかどうかを示します。
オーダー詳細が使用可能です	HVU オーダー・タイプのオーダー情報。
オーダー・データ・サイズ	解凍されたオーダー・データのサイズ (キロバイト)。
日時	タイム・スタンプは日時形式で表示されます。
署名準備完了	オーダーが既にユーザーによって署名済みかどうかを示します。False は、オーダーが既にユーザーによって署名済みであることを示します。True は、オーダーがユーザーによって署名される準備ができていないことを示します。

フィールド	説明
必要な署名	オーダーを許可するのに必要な署名の最小数を表示します。
完了した署名	<p>オーダーの検証を完了した署名の数。既に提供済みの電子署名の数および前の署名者に関する情報を示します。以下の署名者の詳細を表示するには、「署名者情報」のリンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パートナー名: 取引パートナーの名前</li> <li>• ユーザー ID</li> <li>• 名前: 署名者の名前</li> <li>• タイム・スタンプ</li> <li>• 許可レベル: 署名者の許可レベル</li> </ul>
「オーダー情報」リンク	<p>以下のオーダー情報の詳細を表示するには、「オーダー情報」リンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 口座: 「アカウント情報」リンクをクリックして、口座名義人、通貨コード、口座の説明、口座名義人の役割、口座番号および銀行コードを表示します。</li> <li>• 金額: オーダー・トランザクションの金額を表示します。</li> <li>• 通貨コード: オーダー・トランザクションの通貨コードを表示します。</li> <li>• デビット</li> <li>• 実行日: オーダーの実行日を表示します。</li> <li>• 説明: 「説明」リンクをクリックして、署名者の説明および説明タイプを表示します。</li> </ul>

5. 「オーダーのキャンセル」をクリックします。

6. 「VEU オーダー詳細」ウィンドウで、以下のパラメーターに値を指定します。

フィールド	説明
オーダー ID 接頭部 (Order ID prefix)	ドロップダウン・リストからアルファベットを選択します。
セキュリティー・メディア (Security medium)	ユーザーの銀行特有のキーのセキュリティー・メディア。0100 から 0499 の範囲の 4 桁のセキュリティー番号を入力します。
銀行 URL (Bank URL)	ドロップダウン・リストから銀行 URL を選択します。

7. 「送信 (Submit)」をクリックします。



## 第 10 章 システム・プロパティ値の更新

### このタスクについて

EBICS Client の構成後に、EBICS Client 管理者または EBICS Client スーパー管理者は、システム・プロパティ値を更新することができます。システム・プロパティ値を更新するには、以下のステップを実行します。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「管理」メニューから、「システム・プロパティ (System Property)」を選択します。
3. 「更新」をクリックして、次の表にリストされたシステム・プロパティ値を更新します。

フィールド	説明
メールボックス・メタデータ・パス (Mailbox metadata path)	OrderMetadata メッセージを保管するメールボックスを指定します。
暗号の強度 (Cipher strength)	「暗号の強度 (Cipher Strength)」を指定します。有効な値は、「強 (Strong)」、「すべて (All)」、および「弱 (Weak)」です。
クライアント・アダプター (Client adapter)	取引パートナーに要求を送信するためのクライアント・アダプターを指定します。例えば、取引パートナーへの HTTP 要求を送信する HTTP クライアント・アダプターを構成します。
ロー要求 (Raw request)	ビジネス・プロセスにロー要求メッセージ渡されるかどうかを指示するには、「はい」を指定します。指示しない場合は、「いいえ」を指定します。
ロー応答 (Raw response)	ビジネス・プロセスからロー応答が返されるかどうかを指示するには、「はい」を指定します。指示しない場合は「いいえ」を指定します。
エラー時に接続をリセット (Reset connection on error)	サーバーへの接続試行時に、クライアントでのエラー発生で接続をリセットするには、「使用可能」を指定します。
応答タイムアウト	サーバーが応答に要する秒数を指定します。デフォルト値は 30 です。有効値は、1 から 999999 の任意の整数です。
応答コードの表示 (Show response code)	すべてのクライアント・サービスは、サーバーから応答コードを返します。このコードがエラー・コードである場合、ビジネス・プロセスで障害が発生します。エラー・コードが予期される場合は、OnFault サービスを使用して、取引パートナーとの対話を続行します。
接続の再試行回数 (Connection retries)	HTTP クライアント・アダプターがサーバーへの接続を試行する回数を指定します。有効値は、0 から 50 の任意の整数です。デフォルト値は 3 です。

フィールド	説明
再試行の遅延 (Retry delay)	HTTP クライアント・アダプターが再試行を実施するまでの待機秒数を指定します。デフォルト値は 60 です。有効値は、1 から 7200 の任意の整数です。
I/O の待機遅延 (Delay waiting on I/O)	WAITING_ON_IO 状態になるまでの、データ転送の完了を待機する時間を秒数で指定します。-1 を指定すると、サービスがブロッキング・モードで動作します。有効値は、任意の数値です。
各要求について新規 HTTP セッションを初期化 (Initialize new HTTP session for each request)	EBICS Client によってサーバーに送信された各要求について、新規 HTTP セッションを開始する場合、このパラメーターを true に設定します。デフォルト値は false です。
永続セグメント・カウント (Persistence segment count)	ランタイムがイベントをログに記録するまでのセグメント数のカウントです。例えば、セグメント・カウントが 2 の場合、ランタイムでは 2 セグメントごとにイベントがログに記録されます。このパラメーターは、アップロード、およびダウンロードのオーダー・タイプのみで有効です。
オーダー ID の生成のキャッシュ・サイズ	オーダー ID 生成のメモリー内キャッシュ・サイズを指定します。デフォルト値は 30 です。
オーダー ID キャッシュ・ミスのスレッド待機時間 (ミリ秒)	スレッドでキャッシュ・ミスが発生した場合に、スレッドが待機する時間を指定します。デフォルト値は 1000 ミリ秒です。
オーダー ID キャッシュ・ミスの再試行回数	スレッドがキャッシュ・ミスの間隔を待機しなければならない回数を指定します。デフォルト値は 5 です。
商品 ID	EBICS Client アプリケーションの商品 ID を入力します。
ユーザー・インターフェースの言語	使用する EBICS Client アプリケーションの言語設定を入力します。例えば、言語を英語に設定する場合、EN と入力します。
保留中のタスクを持つオーダーの保存期間 (日単位)	保留中のタスクを持つオーダーを、ページせずにシステム内に保存しなければならない日数を指定します。デフォルト値は 1000 です。
KeyOrderData xml で「esig」名前空間を使用	「esig」を KeyOrderData xml でデフォルトの名前空間としてではなく、追加名前空間として使用する場合、true を指定します。デフォルト値は true です。
KeyManagement 要求 xml にオプション要素を挿入	EBICS 鍵管理の要求スキーマで指定されたオプション要素を KeyManagement 要求 xml に挿入する場合、true を指定します。デフォルト値は true です。
初期化レターのハッシュ入力にスペース付きの係数および指数を使用	初期化レターのハッシュを、スペース付きの係数および指数としてハッシュ入力を使用して計算する必要がある場合、true を指定します。初期化レターのハッシュを、証明書全体または公開鍵を使用して計算する必要がある場合、false を指定します。デフォルト値は false です。
銀行鍵の検証でのハッシュ入力にスペース付きの係数および指数を使用	銀行鍵の検証でのハッシュを、スペース付きの係数および指数としてハッシュ入力を使用して計算する必要がある場合、true を指定します。銀行鍵の検証でのハッシュを、証明書全体または公開鍵を使用して計算する必要がある場合、false を指定します。デフォルト値は false です。

4. 「終了」をクリックして、更新した変更内容を保存します。

## 第 11 章 自分のプロフィール

### このタスクについて

「自分のプロフィール」ページは、ユーザー設定の表示に利用できます。設定は、ユーザー・タイプに応じて異なります。

### 手順

1. Sterling B2B Integrator EBICS Client にログインします。
2. 「管理」メニュー、「オペレーター」メニュー、または「ユーザー」メニューから、「自分のプロフィール」を選択します。次の表は、表示されるユーザー・タイプ別の設定のリストです。

表 5. EBICS Client User

ユーザー設定	説明
ユーザー ID	ユーザー ID が表示されます。
ユーザー名 (User name)	ユーザー名が表示されます。
ユーザー・タイプ	ユーザー・タイプが表示されます。
時間帯	ユーザーの時間帯が表示されます。
テクニカル・ユーザー (Technical user)	ユーザーがテクニカル・ユーザーであるかどうかを示します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• はい</li><li>• いいえ</li></ul>
証明書タイプ	ユーザーが ID、認証、暗号化、電子署名証明書の認可を得るために、使用する証明書のタイプが表示されます。
認証プライベート証明書 (Authentication private certificate)	ユーザーの認証プライベート証明書が表示されます。
認証パブリック証明書 (Authentication public certificate)	ユーザーの認証パブリック証明書が表示されます。
認証鍵バージョン (Authentication key version)	認証鍵バージョンが表示されます。
暗号化プライベート証明書	ユーザーの暗号化プライベート証明書が表示されます。
暗号化パブリック証明書	ユーザーの暗号化パブリック証明書が表示されます。
暗号鍵バージョン (Encryption key version)	暗号鍵バージョンが表示されます。

表 5. EBICS Client User (続き)

ユーザー設定	説明
電子署名にハードウェア鍵ストアを使用 (Use hardware key-store for ES)	電子署名 (ES) にハードウェア鍵ストアが使用されるかどうかを示します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ</li> </ul>
電子署名秘密鍵 (Electronic signature private key)	ユーザーの電子署名プライベート証明書が表示されます。
電子署名公開鍵 (Electronic signature public key)	ユーザーの電子署名パブリック証明書が表示されます。
電子署名鍵バージョン (Electronic signature key version)	電子署名の鍵バージョンが表示されます。
関連パートナー (Associated partner(s))	「すべてを表示」リンクをクリックすると、関連パートナーの情報が表形式で表示されます。パートナー名、アップロード・メールボックス・パス、およびダウンロード・メールボックス・パスが表示されます。
銀行関連パートナー (Associated partner(s) with Banks)	「すべてを表示」リンクをクリックすると、銀行に関連付けられたパートナー、パートナー名、銀行 ID およびステータスが表示されます。EBICS Client ユーザーが、初期化済み、または作動可能状態の場合、INI または HIA レターも生成できます。EBICS Client ユーザーに SPR オーダー・タイプの送信権限がある場合は、SPR オーダー・タイプの送信のためのアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、現在のユーザーが銀行で使用停止にされます。

表 6. EBICS Client Super Admin、EBICS Client Admin、または EBICS Client Operator

ユーザー設定	説明
ユーザー ID	ユーザー ID が表示されます。
ユーザー名 (User name)	ユーザー名が表示されます。
ユーザー・タイプ	ユーザー・タイプが表示されます。
時間帯	ユーザーの時間帯が表示されます。

---

## 第 12 章 EBICS Client リソースのインポートおよびエクスポート

Sterling B2B Integrator を使用して、EBICS Client に関連するリソースのインポート、およびそのリソースの構成データのエクスポートが可能です。

例えば、銀行プロファイル、ユーザー・プロファイル、ファイル形式、オファーおよびユーザー権限の構成データを XML 形式でエクスポートし、システムに保管することができます。XML 形式の銀行プロファイル、ユーザー・プロファイル、ファイル形式、オファーおよびユーザー権限の構成データをインポートできます。リソースの管理について詳しくは、Sterling B2B Integrator インフォメーション・センターの『リソース管理 (Resource Management)』を参照してください。

ユーザー権限またはオファーのエクスポートを選択した場合、すべての従属リソース・タイプ (銀行およびユーザー・プロファイルなど) もエクスポートされます。インポート時には、別のページに表示されている、各従属リソース・タイプを必ず選択してください。例えば、ユーザー権限のインポートを選択した場合、関連したユーザー・プロファイルを必ず選択してください。

**注:** デフォルト URL を持つ銀行プロファイルをエクスポートし、その銀行プロファイルがターゲット・システムに存在するが、異なるデフォルト URL と関連付けられている場合、インポート後に銀行プロファイルは複数のデフォルト URL を保有します。単一のデフォルト URL を保持するには、EBICS Client アプリケーション・ダッシュボードにログインし、銀行構成設定を編集します。そうでない場合は、EBICS Client ランタイムは、データベースから取り出された 1 番目のデフォルト URL を使用して、トランザクションを実行します。

**注:** EBICS Client では、銀行はオファーを 1 つのみ保有できます。ターゲット・システムに、エクスポート XML にある 1 次キーと同じ 1 次キーを持つオファーがある場合、および「更新するリソース (Resources to be updated)」オプションが「はい」に設定されている場合、ターゲット・システム内のオファーは、エクスポート XML 内のオファーに関連付けられたオーダー・タイプで更新されます。ただし、ターゲット・システム内のオファーの 1 次キーがエクスポート XML 内の 1 次キーと異なる場合は、ターゲット・システム内のオファーおよび関連したオーダー・タイプは、エクスポート XML 内のオファーおよび関連したオーダー・タイプに置き換えられます。

---

### EBICS Client リソースのエクスポート このタスクについて

EBICS Client リソースをエクスポートするには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。

2. 「管理」メニューから、「展開」 > 「リソース・マネージャー」 > 「インポート/エクスポート」を選択します。
3. 「リソースのエクスポート」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「出力フォーマット・タイプ」ページで、エクスポートするファイルの形式のタイプを選択します。有効な値は、「XML ドキュメント」および「インストール・バンドル」です。
5. 「次へ (Next)」をクリックします。
6. 「リソース・グループ」ページで、「いいえ」を選択すると、タグに関連付けられたリソースをエクスポートしないことを示します。タグ名に基づいてリソース・グループ全体をエクスポートする場合は、「はい」を選択します。
7. 「次へ (Next)」をクリックします。
8. 「エクスポート・タイプ」ページで、エクスポートのタイプに「標準」を選択します。このオプションを選択すると、デフォルトのバージョンをエクスポートします。
9. 「次へ (Next)」をクリックします。
10. 「リソースの選択」ページで、「**EBICS Client リソース (EBICS Client Resource(s))**」を選択します。
11. 「次へ (Next)」をクリックします。
12. 「**EBICS Client リソースの選択 (Select EBICS Client Resource(s))**」ページで、エクスポートするリソースを選択します。

オプション	説明
ファイル形式 (File Format)	ファイル形式に関する情報です。
銀行オファー (Bank Offer)	銀行プロファイルの詳細およびオファーに関連付けられたファイル形式など、オファーに関する情報。
ユーザー権限	ユーザー、取引パートナー (ID レコード)、銀行プロファイルの詳細、オファー、オーダー・タイプ、およびオファーに関連付けられたファイル形式に関する情報。
銀行プロファイル	銀行および銀行に関連付けられた信頼された証明書に関する情報。
ユーザー・プロファイル	ユーザー、パートナー、関連データ (メールボックスの権限、ID レコード、信頼された証明書およびシステム証明書など) に関する情報。

13. 「次へ (Next)」をクリックします。
14. 選択されたそれぞれのリソース・タイプについて、エクスポートする項目を「選択可能」リストから「エクスポートする」リストに移動します。
15. 「**従属レコードのエクスポート**」フィールドで、「はい」を選択すると、Sterling B2B Integrator で EBICS Client 用に構成済みの情報がエクスポートされます。その必要がない場合は「いいえ」を選択します。この情報には、メールボックス構成、デジタル証明書、ID レコードに関する情報などがあります。
16. 「次へ (Next)」をクリックします。

17. 「セキュリティ」ページで、システム・パスフレーズを入力して確認後、「次へ」をクリックします。
18. 「確認」ページで、エクスポートするリソースの情報を確認して、「終了」をクリックします。エクスポート・ファイルが作成されます。
19. 「終了」ページで、「エクスポート・レポートの表示」をクリックして、エクスポート・レポートを確認します。エクスポート・ファイルをダウンロードして、ハード・ディスクに保存するには、「エクスポート・データのダウンロード (Download Export data)」をクリックします。

---

## EBICS Client リソースのインポート

### このタスクについて

EBICS Client リソースをインポートするには、以下のステップを実行します。

#### 手順

1. Sterling B2B Integrator にログインします。
2. 「管理」メニューから、「展開」 > 「リソース・マネージャー」 > 「インポート/エクスポート」を選択します。
3. 「リソースのインポート」の横にある「実行 (Go!)」をクリックします。
4. 「ファイルのインポート (Import File)」ページで、次の表に記載されているフィールドの値を指定し、「次へ」をクリックします。

フィールド	説明
ファイル名	必須。「参照」をクリックして、インポートするファイルを見つけて選択します。ファイルは、XML ドキュメント (.xml) またはインストール・バンドル (.jar) でなければなりません。
パスフレーズ	オプション。プロンプトが出された場合のファイルのパスフレーズを指定します。
バックアップ生成のスキップ	オプション。更新されたエンティティのバックアップの生成を必要としない場合、「チューニング・オプション」の下にある、チェック・ボックスを選択します。
すべてのリソースのインポート	オプション。すべてのリソースをインポートする場合、「チューニング・オプション」の下にある、チェック・ボックスを選択します。例えば、メールボックスに関連付けられた権限、ID レコード、秘密鍵証明書が自動的にインポートされます。このオプションを選択しない場合、各リソース・タイプについて、インポートする項目の選択を要求するプロンプトが表示されます。

5. このステップはオプションです。インポートされたデータをリソース・グループと関連付ける場合、「リソース・タグの作成」ページで、「タグ名」および「タグの説明」を入力します。

6. 「次へ (Next)」をクリックします。
7. 「オブジェクトの更新」ページで、「はい」を選択すると、システムに存在するオブジェクトが更新されます。「いいえ」を選択すると、システムに存在しないオブジェクトがインポートされます。
8. 「次へ (Next)」をクリックします。
9. 選択されたそれぞれのリソース・タイプについて、インポートする項目を「選択可能」リストから「インポートする」リストに移動します。
10. 「次へ (Next)」をクリックします。
11. 「確認」ページで、インポートするリソースの情報を確認して、「終了」をクリックします。データがインポートされます。
12. 「終了」ページでは、以下のアクションを実行できます。
  - インポート・レポートを確認するには、「インポート・レポートの表示」をクリックします。
  - パフォーマンス・レポートのサマリー・データを確認するには、「パフォーマンス・レポートの表示」をクリックします。
  - データのバックアップ・コピーを取得するには、「インポート前の SI 内のデータ (.xml)」の横にある「ダウンロード」をクリックします。

注: 「バックアップ生成のスキップ」オプションを選択している場合、「ダウンロード」リンクは表示されません。

## 第 13 章 EBICS Client ユーザー・インターフェースへのアクセス権限

Sterling B2B Integrator EBICS Client グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) およびその機能にアクセスするには、以下の権限グループのいずれかが割り当てられている必要があります。

- EBICSClient SuperAdmin
- EBICSClient Admin
- EBICSClient Operator
- EBICSClient Users

次の表は、Sterling B2B Integrator EBICS Client メニュー項目と、各グループに関連付けられたページへのアクセスに必要な権限のリストです。

注:

メニュー項目へのアクセス権限があれば、関連するページの全機能に加えて、管理者権限があるユーザーに制限されている削除機能にアクセスすることができます。

表 7. Sterling B2B Integrator EBICS Client メニュー項目と権限

メニュー項目	権限	EBICSClient			
		SuperAdmin	Admin	Operator	Users
「プロフィール管理 (Profile management)」 > 「ユーザー」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
「プロフィール管理 (Profile management)」 > 「銀行 (Bank)」 > 「プロフィール」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
「プロフィール管理 (Profile management)」 > 「銀行 (Bank)」 > 「オファー構成 (Offer configurations)」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
「プロフィール管理 (Profile management)」 > 「銀行 (Bank)」 > 「銀行鍵の検証 (Bank key validations)」	VALIDATE	あり	あり	なし	なし

表 7. Sterling B2B Integrator EBICS Client メニュー項目と権限 (続き)

メニュー項目	権限	EBICSClient			
		SuperAdmin	Admin	Operator	Users
「プロフィール管理 (Profile management)」 > 「ファイル形式 (File formats)」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
プロフィール管理 (Profile management)」 > 「キー」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
「権限 (Permissions)」 > 「ユーザー権限 (User permissions)」	CREATE	あり	あり	なし	なし
	EDIT	あり	あり	なし	なし
	VIEW	あり	あり	あり	なし
	DELETE	あり	あり	なし	なし
「オーダー送信 (Order submission)」	SUBMISSION	なし	なし	なし	あり
「ビューアー」 > 「イベント・ビューアー」	SEARCH	あり	あり	あり	あり
「ビューアー」 > 「オーダー検索 (Order search)」	SEARCH	あり	あり	あり	あり
「ビューアー」 > 「保留中タスク (Pending tasks)」	VIEW	なし	なし	なし	あり
	SIGN	なし	なし	なし	あり
「ビューアー」 > 「保留中 VEU タスク (Pending VEU tasks)」	VIEW	なし	なし	なし	あり
	SIGN	なし	なし	なし	あり
	SUBMIT	なし	なし	なし	あり
注: 「保留中 VEU タスク (Pending VEU tasks)」 ページは、「オーダー送信 (Order submission)」メニューから HVU および HVZ オーダー・タイプを送信した後のみに表示されます。					
「システム・プロパティ (System Property)」	VIEW	あり	あり	なし	なし
	UPDATE	あり	あり	なし	なし
「自分のプロフィール」	VIEW	あり	あり	あり	あり

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

- イベント検索 61
- イベントの検索 61
- イベントの要約 61
- オーダー情報の フィールド 55
- オーダーの 検索 63
- オーダーの 構成 55
- オーダーの検索 63
- オーダーの構成 55
- オーダーのパラメーター 55
- オーダー要約 63
- オファ어의検索 43
- オファ어의削除 44
- オファ어의作成 43
- オファ어의編集 44

## [カ行]

- 各ページへのアクセス権限 87
- キー・システム証明書 26
- キー・システム証明書のチェックイン 26
- 既存ユーザーの EBICS Client ユーザーとしての構成 27
- 既存ユーザーの構成 27
- 銀行 1
- 銀行鍵の検証 42
- 銀行プロファイルの検索 39
- 銀行プロファイルの削除 42
- 銀行プロファイルの作成 38
- 銀行プロファイルの編集 40
- 権限 87

## [サ行]

- 自己署名証明書 22
- 自己署名証明書の作成 22
- システム証明書 25
- システム・プロパティ値 79
- システム・プロパティ値の更新 79
- 自分のプロファイル 81
- 信頼されたシステム証明書のチェックイン 25
- スケジュールの有効化 21
- 絶対パス: 定義 14

- 前提条件の構成 7
- 組織 1

## [ハ行]

- パートナー 1
- ファイル形式の検索 45
- ファイル形式の削除 46
- ファイル形式の作成 45
- ファイル形式の編集 46
- ファイル・システム・アダプターの構成 12
- ファイル・システム・アダプター 12
- プロファイル 81
- 保留中タスク 67

## [マ行]

- メールボックスの権限 20
- メールボックスの作成および権限の割り当て 20

## [ヤ行]

- ユーザー権限の検索 49
- ユーザー権限の構成 47
- ユーザー権限の削除 51
- ユーザー権限の作成 47
- ユーザー権限の編集 49
- ユーザーの権限 87
- ユーザーの初期化 53
- ユーザーまたはサブスクライバー 1
- ユーザー・アカウント 9
- ユーザー・アカウントの作成 9
- ユーザー・プロファイルの検索 32
- ユーザー・プロファイルの削除 37
- ユーザー・プロファイルの編集 32

## C

- CA 証明書 23
- CA 証明書のチェックイン 23

## E

- EBICS Client ダッシュボード・インターフェース 3
- EBICS Client のプロファイル 27
- EBICS Client のプロファイル管理 27
- EBICS の 概要 1

- EBICS の概要 1

## I

- ID レコード 8
- ID レコードの作成 8



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Corporation*

*J46A/G4*

*555 Bailey Avenue*

*San Jose, CA 95141-1003*

*U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

**IBM** 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

**IBM** の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

当該のサンプル・プログラムの複製物のそれぞれ、またはそのあらゆる部分、あるいはすべての派生的創作物にも、次のように著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2012. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com)<sup>®</sup> は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべてのJava 関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO、LTO (ロゴ)、Ultrium および Ultrium (ロゴ) は、米国およびその他の国における HP、IBM、および Quantum の商標です。

Connect Control Center<sup>®</sup>、Connect:Direct<sup>®</sup>、Connect:Enterprise<sup>™</sup>、Gentran<sup>®</sup>、Gentran<sup>®</sup>:Basic<sup>®</sup>、Gentran:Control<sup>®</sup>、Gentran:Director<sup>®</sup>、Gentran:Plus<sup>®</sup>、Gentran:Realtime<sup>®</sup>、Gentran:Server<sup>®</sup>、Gentran:Viewpoint<sup>®</sup>、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Sterling Information Broker<sup>®</sup>、および Sterling Integrator<sup>®</sup> は、Sterling Commerce<sup>™</sup>、Inc.、IBM Company の商標です。





Printed in Japan